

282-32



1200501361579

國學院大學一覽
昭和十二年

2
22



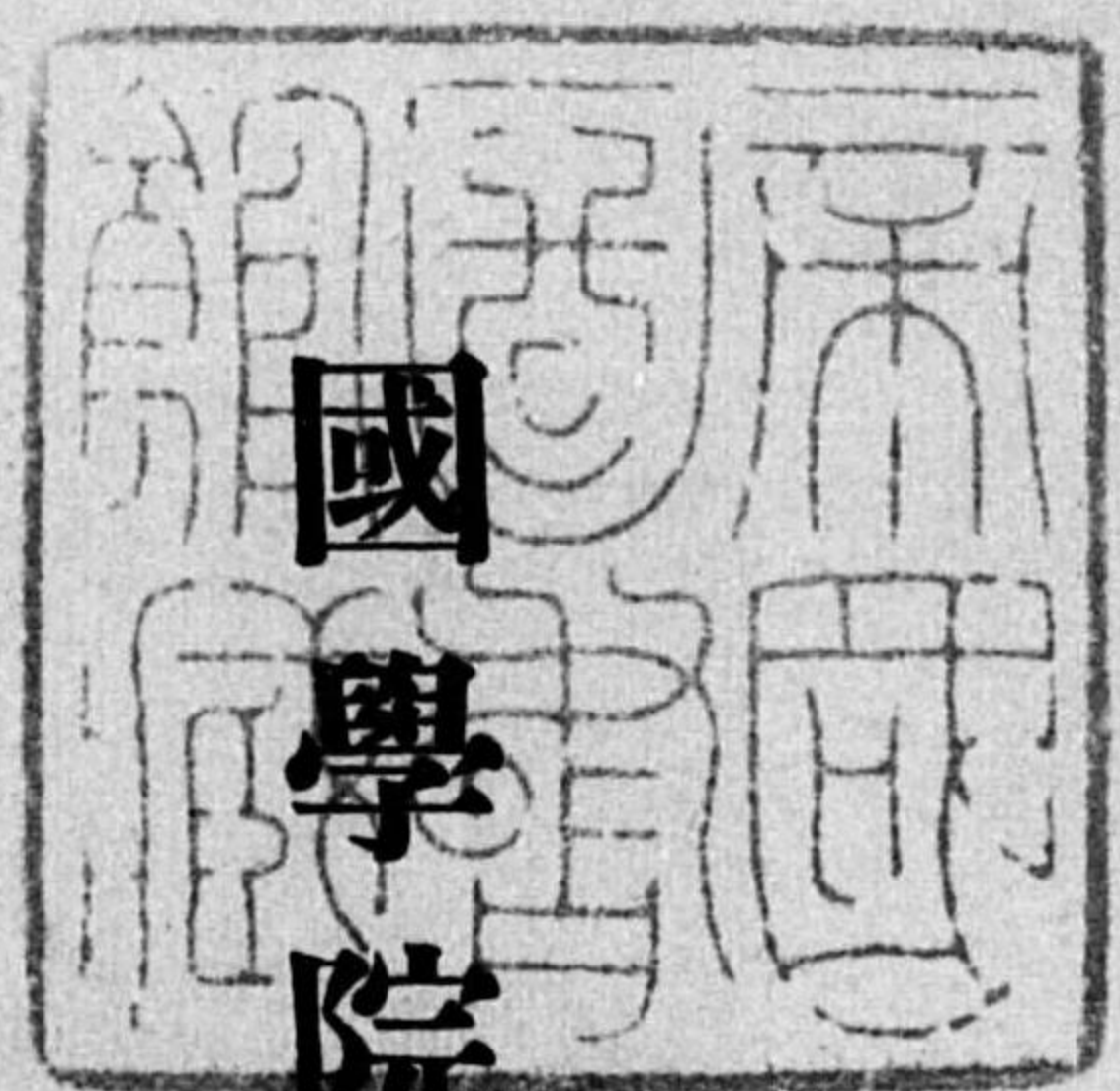
始



282
32

國學院大學一覽

昭和十一年



國學院大學一覽

昭和十



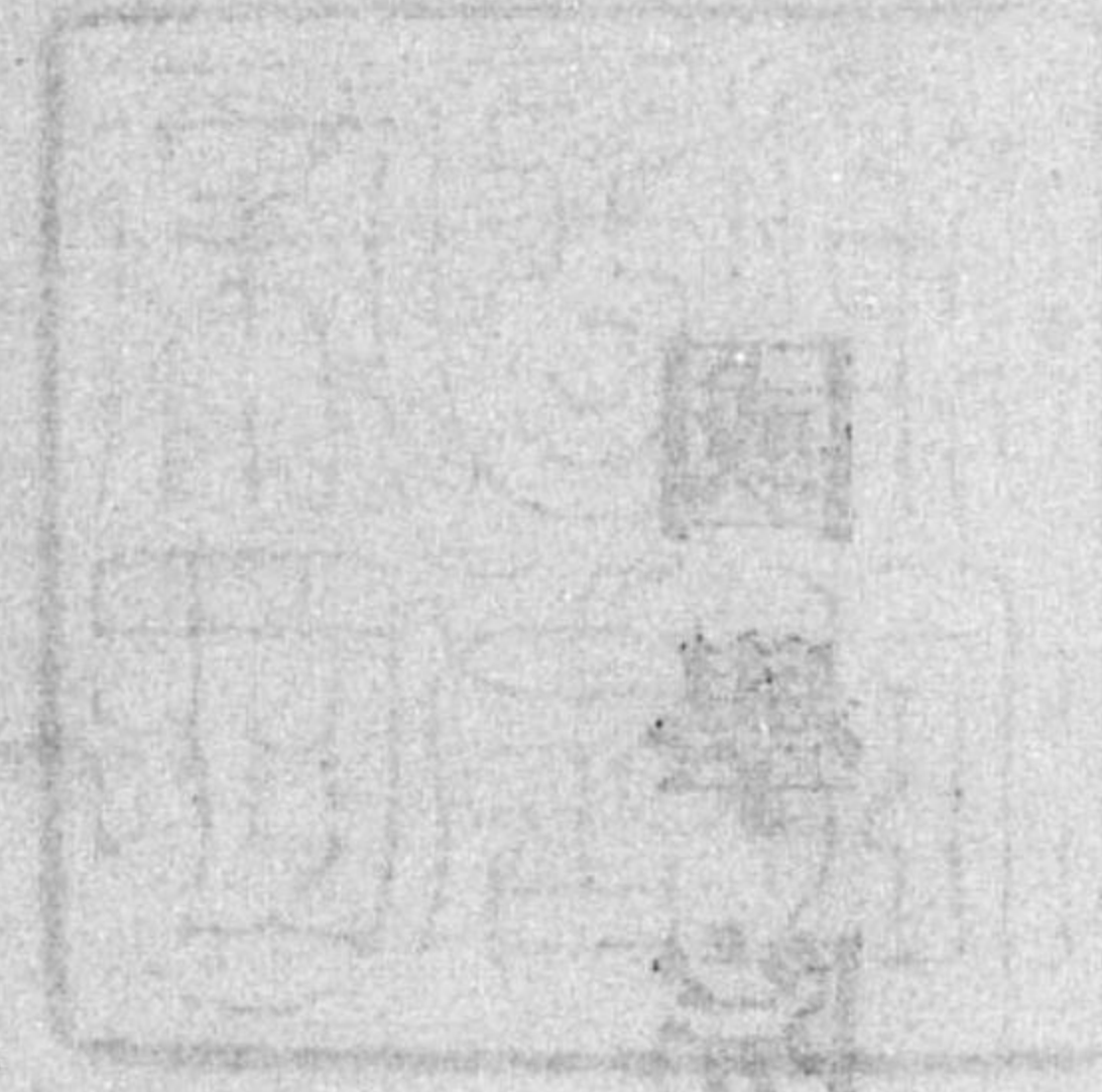
發行所寄贈本



國學院大學校歌

文學博士 芳賀矢一 作

- (一) 見はるかすもの皆清らなる
澁谷の丘に大學立てり
いにしへ今の文明らめて
國の基を究むるところ
- (二) 外つ國々の長きを探りて
我が短きを補ふ世にも
いかで忘れんもとつ教は
いよゝ磨かんもとつ心は
- (三) 學びの巷そのやちまたに
國學院の宣言高く
祖先の道は見よこゝにあり
子孫の道は見よこゝにあり



國學院大學一覽

部隊十



告

諭

皇典講究所假建設成ル茲ニ良辰ヲ選ヒ本日開養ノ式ヲ行フ幟仁總裁ノ任ヲ負ヒ親ク式場ニ臨ミ職員生徒ニ告ク

凡學問ノ道ハ本ヲ立ツルヨリ大ナルハ莫シ故ニ國體ヲ講明シテ以テ立國ノ基礎ヲ鞏クシ徳性ヲ涵養シテ以テ人生ノ本分ヲ盡スハ百世易フヘカラサル典則ナリ而シテ世或ハ此ニ暗シ是レ本養ノ設立ヲ要スル所以ナリ

今ヨリ後職員生徒此ノ意ヲ體シ夙夜懈ルコト無ク本養ノ隆昌ヲ永遠ニ期セヨ

明治十五年十一月四日

一品勳一等有栖川幟仁親王

令 旨

熟々方今ノ世局ヲ察スルニ國トシテ其ノ興隆ヲ是レ圖ラサルハナシ而シテ國運ノ發
展國力ノ充實ハ國民精神ノ緊張ト固有文化ノ發達ニ待ツ所極メテ多シ皇典講究所國
學院大學ハ夙ニ國體ノ講明道義ノ發揚國典ノ攻究竝ニ之ニ緊切ナル教育ヲ施スヲ目
的トシテ起リ之カ達成ニ努力スルコト茲ニ年アリ今總裁ノ任ニ就クニ當リ本所本大
學關係諸員ノ遠ク創立ノ趣旨ニ鑑ミ近ク現下ノ國情世界ノ大勢ニ察シ益々當初ノ精
神ヲ發揮シ協戮以テ事業ノ成功ヲ期センコトヲ望ム

昭和四年三月二十三日

皇典講究所總裁大勳位載仁親王

御 沙 汰 書

私立國學院大學

今般規模擴張之計畫有之趣被聞召以 特旨金貳萬圓下賜候事

明治四十二年十一月十日

宮 內 省

皇 典 講 究 所

今般其所竝國學院大學規模擴張ノ趣被聞食 思召ヲ以テ第一期分大正八年度以降十
ケ年間年々金壹萬圓宛御補助トシテ下賜候事

大正八年一月二十二日

宮 內 省

竹 田 宮

御協賛ノ御趣旨ヲ以テ御下賜ヲ蒙ル (大正八年十一月三日)

李 王 家

御協賛ノ御趣旨ヲ以テ御下賜ヲ蒙ル (大正八年十一月十一日)

皇 帝 王 后 御 賜 謝 意

國學院大學一覽

昭和十一年度

目 次

一、國學院設立趣意書	一
二、國學院大學沿革概要	三
三、總裁、副總裁、所長、學長一覽表	三
四、皇典講究所寄附行爲	四
五、皇典講究所規則	七
六、國學院大學規則	三
七、國學院大學商議委員會規程	七
八、國學院大學教授會規程	六
九、國學院大學學位規程	九
一〇、大學令	一

三八、神職養成部規則…………… 一〇三
 三九、昭和十一年度學科配當…………… 二五

國學院設立趣意書

人之世キ在ルヤ各其本國ニ繫屬ス故ニ其國ヲ愛重シ其君ニ忠實ナルハ人ノ德義ニ於テ當然至要ナル者トス近時各國人ヲ教フル法必先其國史國文國法ヲ授ケ次ニ百科ノ業ニ從事セシムルヲ常トス是蓋人ヲシテ先其國其君ニ於ケル忠愛ノ良心ヲ萌生シ靄然トシテ赤子ノ慈母ヲ慕フカ如ク親和密合シテ離ルヘカラサル感想ヲラシメ然ル後始メテ立身治生ノ道開物成務ノ業ニ進マシメントスルニアリ故ニ其効果ハ以テ民タルトキハ善良ノ民タルヘク以テ兵タルトキハ義勇ノ兵タルヘク以テ官吏タルトキハ公平正直ノ官吏タルヘク多士濟々トシテ學ケテ皆君ニ忠ニ國ヲ愛スル精神ヲ興起セサルハ無キナリ

各國其國體ヲ異ニシ其姓ヲ更ヘ民其統領ヲ立ツル國ニシテ其臣民ヲ教フル方法猶此ノ如シ顧ミルニ本邦ハ萬世一君覆幬ノ下ニ無二ノ臣民アリ親和密合シテ離ルヘカラサル情義ヲ存スルハ建國以來終始一貫火ヲ觀ルカ如シ然ルニ輓近内外本末ノ辨大ニ其宜ヲ得ス其弊延イテ教育ニ及ヒ公私學校ノ設甚多シト雖モ國學ヲ先ニスル方法未行ハレサルハ余輩ノ痛嘆ニ堪ヘサルナリ

余輩ハ夙ニ本邦固有ノ學術ヲ研究シ皇室ノ尊嚴ナル所以國體ノ鞏固ナル所以ヲ講明シ人情ノ基ク所

風俗ノ由ル所ヲ尋繹シ國民ヲシテ益國家ニ忠愛ナル德義ヲ深厚ナラシメンコトヲ希ヒ前ニ生徒ヲ養ヒ講筵ヲ開キ本邦ノ典故文獻ヲ講究スル方法ヲ設ケシモ規模猶未大ナラサル憾アリ今ヤ機運ノ漸熟スルヲ以テ生徒教養ノ法ヲ改正擴張シ茲ニ國學院ヲ設立シテ專國史國文國法ヲ攻究シ我カ國民ノ國家觀念ヲ湧出スル源泉トナシ 皇祖 皇宗ノ謨訓ニ基キ固有ノ倫理綱常ヲ闡明シ且支那泰西ノ道義說ヲ採擇シ以テ之ヲ補充シ以テ國民ノ方向ヲ一ニシ古今一貫君民離ルヘカラサル情義ヲ維持セントス固ヨリ此ヲ以テ宗教若クハ政黨ノ器用トナスニ非サルナリ若夫レ進ミテ人文ノ發達ヲ追ヒ世務ノ必要ニ應スルニ至リテハ海外百科ノ學モ網羅兼修シテ此學ノ進歩擴張ヲ計ル可シ之ヲ要スルニ本院設立ノ趣意ハ我カ國民ノ國民タル忠愛ノ精神ヲ發揮シ智育ヲシテ國體ニ基ケル德育ト共ニ併進セシメンコトヲ期スルニ在リ

明治廿三年七月

伯爵 山田 顯 義

國學院大學沿革概要

國學院大學ハ財團法人皇典講究所ノ經營スル所ニシテ皇典講究所ハ明治十五年ノ創設ニ係ル。

願フニ當時ノ世相ハ徒ニ智巧ヲ尙ビ技術ヲ競ヒ歐化ノ風朝野ヲ靡シ公私大小ノ學校亦内ヲ棄テテ外ヲ追ヒ本ヲ忘レテ末ニ趨ル等其ノ狀洵ニ寒心ニ堪ヘザルモノアリキ。

茲ニ於テ神道總裁有栖川宮一品職仁親王ハ此ノ時弊ヲ矯正シ國體ヲ闡明スルハ皇學ノ興隆ヲ圖リ國典ヲ講究シテ惟神ノ大道ヲ宣揚スルニ如カズトセラレ明治十四年十一月神道皇學ニ關スル奏書ヲ上リ同十二月親シク拜謁奏聞セラル、所アリ超エテ翌年二月一日聖旨ニ依リテ一品親王皇典講究所總裁ノ任ニ就カセラレ創設ニ旨ヲ注ガセ給フコト、ナリ、同月四日長クモ御内帑金ノ内ヨリ本所設立ノ爲ニ向フ十年間年々金二千四百圓宛御下賜ノ御沙汰ヲ蒙ル。内務卿山田顯義伯ヲ始メ斯道ノ有志志野半、井上賴圀、久保季茲、松野勇雄、古川豊彭、石垣甚内、神道副總裁岩下方平、社寺局長櫻井能監等台旨ヲ奉シ職トシテ事ニ當リ、コノ年六月東京市麴町區飯田町五丁目十八番地ニ費舍及事務所ノ建設ニ着手シ同十一月四日開齋式ヲ舉グルニ至ル。

爾來皇室ノ恩命ヲ拜スルコト後ニ記スルガ如クニシテ一同ノ最モ深ク感激スル所ナリ。

明治十五年九月生徒三十七名ヲ以テ授業ヲ開始シ同二十三年司法大臣伯爵山田顯義等益々斯道振興ノ必要ヲ認メ制度ヲ改メテ國學院ヲ設置ス。

明治二十三年國學院設置ノ當時ニ於ケル所長ハ山田顯義ニシテ松野勇雄幹事ヲ擔任シ、高崎正風新ニ院長トナリ、色川罔土參事トシテ之ヲ佐ケ、青戸波江亦教務主事トシテ就任セリ。

開設ノ當時ニ於テハ修業年限三年ニシテ尋常中學卒業生ヲ本科生トシ外ニ選科生ヲ置キ學生ヲ募リテ七十餘名ヲ選拔收容シ十一月十日授業ヲ開始セリ、其ノ學科ハ道義、國史、國文ヲ必修科目トシ法制、外國史、地理、哲學、漢文、英文、體操ヲ補助科目ト定メタリシガ、明治三十二年學科ヲ整理シテ國史、法制、國語國文、道義哲學、外國史、漢文、英文、體操ノ七科目ヲ必修科目ト改メタリ。

明治三十二年文部省令第二十五條第一號ニヨリ卒業生ニ對シテ國語漢文科及歷史科中等教員ノ資格ヲ付與セラルルコトトナリタリ。

明治三十四年在學生ニ對シテハ文部大臣ヨリ徵兵令第十三條ニ依ル認定ヲ與ヘラルルニ至レリ。

明治三十五年五月二十六日火災ニ罹リ教員室、事務室ヲ全燒シ書類器具等一切烏有ニ歸ス。

明治三十六年學則ヲ變更シテ公私立專門學校規程（明治三十六年文部省令第十三號）ニ準據スルコ

トトシ師範部ノ學科ヲ國語漢文歷史科トシ翌年更ニ之ヲ國語漢文科及歷史地理科ニ分チ別ニ豫科二年本科三年ノ大學部及二年ノ研究科ヲ置キ又專修部ヲ併置セリ。

斯クテ師範部國語漢文科卒業生ニハ國語及漢文ノ中等教員資格、同歷史地理科卒業生ニハ歷史ノ同資格ヲ付與セラルルコトトナリ、又明治三十八年大學部卒業生ニ對シテモ明治三十二年文部省令第二十五條第一條ノ取扱ヲ受クルコトトナレリ。

明治三十九年六月私立國學院大學ト改稱ス。此ノ年五月九日再ビ火災ニ罹リテ構内建物ノ内教場一棟、道場、倉庫等燒失シ在庫書類等烏有ニ歸ス。

明治四十二年十一月十日ニハ宮内省ヨリ本大學規模擴張ノ計畫ノ趣聞召サレ特旨ヲ以テ金貳萬圓御下賜アラセラルル旨御沙汰ヲ傳ヘラル。

明治四十三年歷史地理科ヲ歷史科ト改メ大正元年大學部ノ修業年限一年ヲ短縮シテ豫科ヲ一年トシ師範部ノ歷史科ヲ廢止セリ。

大正三年十一月十五日劍道場振武館ヲ開館ス。

大正四年文部省令第二號第一條ニ依リ文官任用令上ノ認定ヲ受ク。

大正八年一月二十三日宮内省ヨリ皇典講究所竝ニ國學院大學規模擴張ノ趣聞召サレ思召ヲ以テ第一

期分大正八年度以降十ヶ年間年々金壹萬圓宛ヲ御下賜アラセラルル旨御沙汰ヲ傳ヘラル、同年更ニ私立ノ二字ヲ削リテ單ニ國學院大學ト稱スル事トナセリ。

大正九年從來専門學校令ニ依リシ大學部ヲ昇格スル意味ニ於テ大學令ニ據ル大學設立ノ件認可セラレ次テ本大學々位規程及教授會規程ヲ制定ス、同時ニ師範部國語漢文科ヲ高等師範科ト改稱シ大學々則ヲ制定シテ大學豫科部長及高等師範科部長ノ職ヲ置ク。

同十年十二月二十六日大正十年度ヨリ大正十九年度迄毎年補助金貳萬五千圓ヲ文部省ヨリ補助セララル旨指令ヲ受ク。

大正十一年高等師範科ノ規程ヲ改正シテ臨時專攻科ヲ設置ス。

同十二年専門學校令ニ依ル大學部ヲ廢シ高等師範科ヲ高等師範部ト改メ次デ附屬高等師範部ト改稱セリ。逐年ノ發展ニ伴ヒ從來ノ校地校舍ハ狹隘ヲ告グルニ至リ此ノ年五月二十三日東京市澁谷區若木町ニ新築移轉ス。

同年七月九日學位令第二條ニ依リ教授三矢重松ニ對シテ文學博士ノ學位ヲ授與セリ。

大正十三年學部及大學豫科卒業生ニ對シテ明治三十六年文部省告示第三十號ニ依ル中等教員無試験檢定ニ關スル取扱許可ヲ受ケ、又學部卒業生ニ對シテ大正八年文部省告示第二百七十四號ヲ以テ

高等學校高等科教員無試験檢定ニ關スル取扱許可ヲ受ク。此ノ年五月二十七日附屬高等師範部生徒定員ヲ五百五十名ニ變更ノ件認可セラル。

大正十四年十一月三十日學部學則中、修得最少單位數三十ヲ二十四ニ變更ノ件認可セラル。

昭和二年三月八日専門學校令ニ依ル附屬神職部設立ノ件認可セラル、定員二百十名ニシテ四月二十二日ヨリ授業ヲ開始セリ。

同年三月九日故芳賀矢一嗣子檀氏ヨリ獎學資金トシテ金參千圓也寄贈セラル。

同年五月二十三日大學附屬圖書館ノ新築成ル。

同年七月十八日學則ヲ改正シテ道義學科ヲ倫理科及哲學科ノ二分科トナスノ件認可セラル。

同年八月三十日附屬高等師範部規程第十七條「高等師範部卒業生（國文選科生ヲモ含ム）ニシテ禮典ヲ修得シタルモノニハ銓衡ノ上、皇典講究所ノ相當學階ヲ授與ス」削除ノ件認可セラル。

昭和三年三月二十六日學部ノ定員ヲ増加シ、學部三百六十名、大學豫科二百四十名ニ改正ノ件認可セラル。

同年十月五日 天皇陛下 皇后陛下ノ御眞影ヲ下賜セラル。

同年五月二十五日學則ヲ改正シ大學豫科ノ試験從來年三回ヲ二回トシ豫科二年ノ課程中ニ自然科學

ヲ加フルノ件認可セラル。

同年八月三十日校地内ニ約五百坪ノ新校舍増築工事竣成ス。

同年十二月十八日附屬高等師範部ヲ第一部第二部ニ分ツノ件竝ニ修業年限三年ヲ四年ニ改ムルノ件生徒定員ヲ七百二十名トスルノ件認可セラル。

昭和四年二月九日宮内省ヨリ曩ニ皇典講究所國學院大學規模擴張ノ爲恩旨ヲ以テ特ニ御下賜金アラセラレシ處尙其ノ事業ノ狀況ヲ開召サレ重ネテ恩旨ヲ辱クシ昭和四年以降十ケ年間年々金壹萬圓宛御下賜ノ旨御沙汰ヲ傳ヘラル。

同年二月十九日附屬神職部規程ノ一部ヲ改正シ同時ニ附屬神道部ト改稱ノ件認可セラル。

同年四月五日附屬高等師範部第一部卒業生ニ對シテ修身、國語、漢文、第二部卒業生ニ對シテ國語、漢文、歴史ノ中等教員無試験檢定ノ取扱ヲ許可セラル。

同年五月二十八日皇典講究所規則(第三十一條)ヲ改正シ大學豫科、附屬神道部、同高等師範部ニ學監各一名ヲ置キ教授講師ヲ以テ之ニ充ツルコトトナセリ。

同年十一月二十一日學部學則改正ノ件認可セラル。

(イ) 學部開設科目ノ整備 (ロ) 外國語學ヲ正科トス (ハ) 授業料ノ増額 (ニ) 條文ノ

組替及整理

同年同月同日附屬高等師範部規程改正ノ件認可セラル。

(イ) 臨時專攻科ノ組織ヲ改メ專修科トス (ロ) 研究科ヲ廢止ス (ハ) 學科課程ノ改正

(ニ) 授業料ノ増額 (ホ) 條文ノ組替及整理

昭和五年三月三十一日附屬神道部規程變更ノ件認可セラル。

(イ) 學科課程ノ改正 (ロ) 條文ノ組替及整理

同年四月二十二日附屬神道部本科及別科第一種卒業生ニ對シテ歴史中等教員無試験檢定ノ取扱ヲ許可セラル。

同年四月二十五日大學豫科ニ於テ英語ヲ以テ入學シ主トシテ英語ヲ修メ、更ニ學部ニ於テ外國語ニ單位(一單位ハ一學年每週四時間)以上ヲ選修シ、且教育學、教育史各一單位ヲ選擇履修シタル學部卒業生ニ對シテ英語中等教員無試験檢定ノ取扱ヲ許可セラル。

同年五月一日構内神殿竣成シ祝祭式ヲ行ヒ爾後毎月一日、月並祭ヲ舉行スルコトトセリ。

同年七月十日國學院大學規則ヲ改正シ學生課ヲ設置ス。

同年八月十一日文部省告示第九十一號ニ依リ高等學校高等科教員無試験檢定ニ關スル指定中、日

本史及東洋史ノ項中「國學院大學文學部國史學科卒業者ニシテ東洋哲學(三)東洋史學(三)教育學(二)ヲ選擇履修シタルモノ」ヲ「國學院大學文學部、國史學科卒業者ニシテ東洋史學(二)教育學(二)ヲ選擇履修シタルモノ」ト改メラル。

同年十一月四日國學院大學創立四十周年記念式ヲ舉グ。

昭和六年二月五日 天皇陛下 皇后陛下ノ御眞影ヲ新ニ下賜セラレ從來奉安ノ御眞影ヲ奉還ス。

同年四月一日東京市大森區調布嶺町鶴ノ木ニ一三、〇〇〇坪ノ運動場ヲ購入ス。

同年十月二十日國學院大學々則竝ニ附屬神道部及附屬高等師範部規程一部ヲ變更シ追試験料ノ徵收ヲ廢止スルノ件認可セラル。

同年十月二十七日學位令第二條ニ依リ教授植木直一郎、同河野省三ニ對シテ文學博士ノ學位ヲ授與セリ。

昭和七年二月二十四日學位令第二條ニ依リ教授折口信夫、同松下大三郎ニ對シテ文學博士ノ學位ヲ授與セリ。

同年十一月四日皇典講究所創立五十周年記念式ヲ舉グ。

昭和八年七月國學院大學學生課ノ人事係ヲ廢シ人事委員會ヲ設置ス。

昭和九年十月二十日劍道場振武館竝ニ食堂移轉改築竣成ス。

同年十二月十日柔道場新築竣成ス。

昭和十年十二月二十日新講堂新築竣成ス。

昭和十一年二月十二日國學院大學附屬神道部規程改正「修業年限三年ヲ四年ニ改ムルノ件 生徒定員二一〇名ヲ二八〇名ニ改ムルノ件」認可セラル。

總裁、副總裁、所長、學長一覽表

總裁 幟 仁親王 自明治十五年二月 至同十九年一月		副總裁 侯爵 久我 建通 自明治十五年九月 至同三十六年九月		所長 伯爵 山田 顯義 自明治二十二年一月 至同二十五年十一月		學長 高崎 正風 自明治廿三年十一月 至同二十六年十二月	
恒 久 王 自明治四十一年五月 至大正八年四月		侯爵 佐佐木 高行 自明治四十三年三月 至同		伯爵 芳川 顯正 自明治四十三年三月 至同		侯爵 佐佐木 高行 自明治廿九年六月 至同	
成 久 王 自大正八年六月 至同十二年四月		侯爵 鍋島 直大 自大正七年四月 至同十年六月		侯爵 鍋島 直大 自明治四十四年二月 至大正七年四月		伯爵 芳川 顯正 自明治四十三年三月 至同	
邦 彦 王 自大正十二年十月 至昭和四年一月		江 木 千之 自昭和七年八月 至同		伯爵 土方 久元 自大正七年四月 至同		伯爵 土方 久元 自大正七年四月 至同	

載仁親王殿下 自昭和四年三月		小松原 英太郎 自大正七年十二月 至同八年十二月		江 木 千之 自大正十四年八月 至昭和十四年二月		博士 芳賀 矢一 自大正七年十二月 至昭和二年二月	
侯爵 佐佐木 行忠 自昭和十一年六月 至同		博士 服部 宇之吉 自昭和七年九月 至同		博士 上田 萬年 自昭和四年三月 至同		博士 市村 瓊次郎 自昭和八年七月 至同	
侯爵 佐佐木 行忠 自昭和十一年五月 至同		公爵 德川 圀順 自昭和七年十月 至同		博士 服部 宇之吉 自昭和四年三月 至同		博士 河野 省三 自昭和十年四月 至同	
侯爵 佐佐木 行忠 自昭和十一年六月 至同		侯爵 佐佐木 行忠 自昭和十一年五月 至同		博士 服部 宇之吉 自昭和四年三月 至同		博士 河野 省三 自昭和十年四月 至同	

皇典講究所寄附行爲

第一 名稱及事務所

第一條 本所ハ皇典講究所ト稱ス

第二條 本所ノ事務所ヲ東京市澁谷區若木町九番地ニ置ク

第二 目的及事業

第三條 本所ハ皇國ノ國體ヲ講明シ道義ヲ發揚シ典故文獻ヲ研究シ且之ニ必要ナル教育ヲ施スヲ以テ目的トス

第三 資産及經費

第四條 本所ノ資産ハ帝室恩賜金不動産其ノ他寄附金等ヨリ成ル

前項資産中帝室恩賜金及不動産ニシテ從來基本財産トシタルモノ竝ニ基本財産トシテ指定セラル寄附金及協議會員ノ決議ニ依リ基本財産ニ編入シタルモノヲ以テ基本財産トス從來基本財産トナセル帝室恩賜金指定寄附金ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス此ノ他ノ基本財産ヲ處分セントスルトキハ協議會員會ノ同意ヲ經且主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條 本所ノ經費ハ資産及事業ヨリ生スル收入其ノ他寄附金等ヲ以テ之ヲ支辨ス

每事業年度ノ豫算及決算ハ協議會員會ノ決議ニ付ス但シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテヲ以テ事業年度トス

第四 職員及協議員

第六條 本所ニ理事十二名監事二名ヲ置キ協議員之ヲ選定ス

理事中ニ於テ所長、國學院大學長、専務理事ヲ互選ス

第七條 理事及監事ノ任期ハ五ヶ年トス但シ重任スルコトヲ得

理事又ハ監事ニ缺員ヲ生シタルトキハ之ヲ補缺スヘシ

補缺理事及監事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

理事及監事ハ任期滿了ノ後ト雖モ後任者ノ就任スルマテハ其ノ職務ヲ行フモノトス

第八條 本所ハ協議員三十名乃至四十名ヲ置キ所長之ヲ選定ス

第五 附 則

第九條 此ノ寄附行爲ヲ變更スルトキハ協議員會ノ同意ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス

沿革
大正八年三月十六日改正
同和十一年六月十七日改正
同和十五年七月一日實施

皇典講究所規則

第一章 總 則

第一條 皇典講究所ハ寄附行爲第三條ノ目的ヲ達センカタメ左ノ事業ヲ行フ

一、國體ノ講明又道義ノ發揚ニ關スル事項

二、典故文獻ノ研究 調査

三、國學院大學ノ經營及其他ノ教育事業

四、圖書雜誌ノ發行及講習 講演

第二條 本所ハ別ニ定ムル所ノ學階授與規則ニ依リ學階ヲ授與ス

第三條 本所ハ地方ニ分所ヲ置ク

分所規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 職 制

第四條 本所ハ皇族ヲ推戴シテ總裁トス

第五條 本所ニ副總裁一名顧問及贊襄若干名ヲ置ク

第六條 本所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

大學長

理事

十二名

監事

二名

主事

若干名

書記

若干名

其他必要ニ應シ臨時職員ヲ置クコトヲ得

第七條 本所ニ講師若干名ヲ置ク

第八條 本所ニ協議員三十名乃至四十名、評議員若干名ヲ置ク

第九條 本所ノ事業ヲ贊成スルモノヲ協議員トス

第十條 總裁ハ協議員ノ協賛ヲ經テ之ヲ推戴ス

副總裁ハ協議員會ノ協賛ヲ經テ總裁之ヲ委囑ス

第十一條 顧問ハ理事會ノ決議ヲ經テ總裁之ヲ委囑ス

贊襄ハ理事會ノ決議ヲ經テ所長之ヲ委囑ス

第十二條 理事及監事ハ協議員會ニ於テ之ヲ選定ス

所長、大學長及専務理事ハ理事ノ互選ニ依リ之ヲ定ム

第十三條 主事ハ理事會ノ決議ヲ經テ所長之ヲ任免ス

第十四條 書記ハ所長之ヲ任免ス

第十五條 講師ハ所長之ヲ囑託ス

第十六條 協議員、評議員及協賛員ハ所長之ヲ囑託ス

第十七條 所長ハ所務ヲ總理シ本所ヲ代表ス

所長ハ常務ハ之ヲ專決シ重要ノ事項ハ理事會ノ決議ニ依リ執行ス

第十八條 所長事故アルトキハ理事會ノ決議ニ依リ理事中ヨリ臨時其ノ代理者ヲ定ム

第十九條 大學長ハ國學院大學及本所ノ經營スル教育事業ヲ總理シ所屬職員ヲ統督ス

第二十條 大學長事故アル時ハ専務理事之ヲ代理ス

第二十一條 専務理事ハ所長ノ指揮ヲ受ケ常務ヲ掌理ス

第二十二條 常務ニ參與セシムルタメ理事會ノ決議ヲ經テ當番理事一名ヲ置クコトヲ得

第二十三條 專務理事事故アルトキハ當番理事之ヲ代理ス

第二十四條 理事ハ重要ナル所務ヲ審議決定ス

第二十五條 監事ハ財務ヲ監査ス

第二十六條 主事ハ上司ノ指揮ヲ受ケ所務ヲ分掌ス

第二十七條 書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ所務ニ服ス

第二十八條 講師ハ諸般ノ講習、講演及其他必要ナル事項ヲ擔當ス

第二十九條 本所ニ庶務、會計、擴張ノ三課ヲ置キ主事ヲ以テ課長トス

第三十條 本所ニ秘書係ヲ置ク

第三章 會 議

第三十一條 會議ヲ分チテ左ノ二種トス

- 一、協議員會
- 二、評議員會

第三十二條 協議員會及評議員會ハ毎年一回所長之ヲ召集ス

第三十三條 協議員會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一、總裁ノ推戴、副總裁ノ推薦

二、理事及監事ノ選定

三、基本財産ノ處分

四、經費收支ノ豫算及決算

五、其他所長ニ於テ重要ト認メタル事項

六、協議員拾名以上ニ於テ提出シタル件

第三十四條 協議員會ノ議案ハ理事會ノ決議ヲ經テ所長之ヲ提出ス

第三十五條 評議員會ハ所務ニ關シテ所長ヨリ諮詢シタル事項ヲ審議ス

第三十六條 協議員會及評議員會ノ開閉ハ所長之ヲ行フ

第三十七條 協議員會ハ所長之カ議長トナリ議事ヲ整理ス

但シ所長事故アルトキハ專務理事之ヲ代理ス

評議員會ハ出席員ノ五選ニ依リ議長及副議長一名ヲ定ム

第三十八條 協議員會ハ其過半数出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

但豫メ通知シタル會議ノ事項ニ付テハ委任狀ヲ以テ他ノ協議員ニ其ノ表決ヲ委任スルコトヲ得

第三十九條 議事ハ出席者ノ過半数ニ依リ之ヲ決ス

可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

臨時協議員會ヲ開クコトヲ得

但場合ニ依リ書面ヲ以テ議案ヲ廻付シ表決ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ表決數ハ全員ノ過半数ナルヲ要シ可否同數ナルトキハ所長之ヲ決ス

第四十條 必要アルトキハ臨時協議員會ヲ開クコトヲ得

但場合ニ依リ書面ヲ以テ議案ヲ廻付シ表決ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ表決數ハ全員ノ過半数ナルヲ要シ可否同數ナルトキハ所長之ヲ決ス

第四章 附 則

第四十一條 此ノ規則ノ改定ヲ要スルトキハ協議員會ノ議ニ付スヘシ

國學院大學規則

第一章 總 則

第一條 國學院大學ハ皇典講究所ノ經營スル所ニシテ學部、大學豫科及附屬神道部、附屬高等師範部ヲ置ク

第二條 本大學ハ附屬圖書館ヲ置ク

第二章 職 制

第三條 本大學ニ左ノ職員ヲ置ク

一、大學長

二、學 監

三、主 事

四、學生監

五、附屬圖書館長

若干名

若干名

若干名

- 六、書記 若干名
- 七、學生監補 若干名
- 八、司書 若干名

第四條 本大學ニ左ノ教員ヲ置ク

- 教授 若干名
- 助教授 若干名
- 講師 若干名

第五條 本大學ニ校醫ヲ置ク

第六條 大學長ハ國學院大學及皇典講究所ノ經營スル教育事業ヲ總理シ所屬職員ヲ統督ス

第七條 大學長事故アルトキハ皇典講究所專務理事之ヲ代理ス

第八條 學監ハ大學長ノ指揮ヲ受ケ訓育及學務ニ關スル事ヲ分掌ス

第九條 學監ハ教授若クハ講師ノ中ニ就キテ大學長ノ具申ニ依リ所長之ヲ任免ス

第十條 主事ハ大學長ノ指揮ヲ受ケ大學ニ關スル事務ヲ分掌ス

第十一條 學生監ハ大學長ノ指揮ヲ受ケ學生生徒ノ誘掖指導及風紀衛生ニ關スル事ヲ司リ學生監

補ハ之ヲ佐ク

第十二條 附屬圖書館長ハ大學長ノ指揮ヲ受ケ圖書館ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十三條 主事學生監及附屬圖書館長ハ大學長ノ具申ニ依リ所長之ヲ任免ス

第十四條 書記ハ上司ノ命ヲ受ケ諸般ノ事務ニ服ス

第十五條 司書ハ上司ノ命ヲ受ケ圖書館ノ事務ニ服ス

第十六條 書記、學生監補及司書ハ大學長之ヲ任免ス

第十七條 校醫ハ校舍内外竝ニ學生生徒ノ衛生保健ノ事ニ當ル

第十八條 校醫ハ大學長之ヲ委囑ス

第十九條 教授講師ハ擔任ノ學科ヲ教授シ學生生徒ヲ指導ス

助教授ハ教授ノ職務ヲ佐ク

第二十條 教授助教授講師ハ大學長ノ具申ニ依リ所長之ヲ委囑ス

第二十一條 本大學ニ功勞アリタル者ニハ商議員會ノ決議ニ依リ皇典講究所總裁ノ允許ヲ得テ名譽

教授ノ名稱ヲ贈ルコトアルヘシ

第二十二條 學生生徒ノ研究ニ資スルタメ研究室ヲ置キ研究室主任若干名ヲ置ク

第二十三條 研究室主任ハ教授若クハ講師ノ中ニ就キテ大學長之ヲ委囑ス

研究室ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十四條 本大學ニ教務、學生ノ二課ヲ置キ主事又ハ學生監ヲ以テ課長トス

第三章 會議

第二十五條 會議ヲ分チテ左ノ二種トス

一、教授會

二、商議員會

第二十六條 教授會ハ學部教授會、大學豫科教授會、附屬神道部教授會、附屬高等師範部教授會ノ

四トス

第二十七條 教授會及商議員會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 附則

第二十八條 此ノ規則ノ改正ヲ要スルトキハ皇典講究所協議員會ノ議ニ付スヘシ

國學院大學商議員會規程

(昭和七年十二月十六日改正)

第一條 國學院大學規則第二十五條ニ因リ本大學ニ商議員會ヲ設ケテ大學長ノ諮詢ニ供フ

第二條 商議員會ハ本學ノ關係者及ヒ本學ノ趣旨ヲ贊襄セル者若干名ヲ以テ組織ス

第三條 商議員ハ大學長ノ推薦ニヨリテ所長之ヲ囑託ス

第四條 商議員會ハ大學長ノ諮詢ニ對シテ左ノ事項ヲ審議ス

一、學則及ヒ之ニ準スル規程ノ改正ニ關スル事項

二、教授助教及ヒ講師ノ囑託ニ關スル事項

三、附屬圖書館ニ關スル事項

四、其ノ他大學長ニ於テ必要アリト認メタル事項

第五條 商議員中常任委員拾五名ヲ置キ隨時緊急ナル事項ヲ審議ス

第六條 常任委員ハ商議員ノ互選トシ任期ヲ三個年トス

但シ再選スルコトヲ得

第七條 商議員會及ヒ常任委員會ニハ皇典講究所專務理事皇典講究所並ニ國學院大學主事課長及ヒ學監其ノ議ニ參與ス

二八

國學院大學教授會規程

第一條 本大學教授會ハ學部教授會豫科教授會神道部教授會高等師範部教授會ノ四トス

第二條 教授會ハ教授ヲ以テ組織シ學長之カ議長トナル

學長ニ於テ必要ト認メタルトキハ教授以外ノ講師職員ヲモ列席セシムルコトヲ得

第三條 學部教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一、學部ノ學科課程ニ關ル事項

二、學部ノ試驗及ヒ成績ニ關スル事項

三、學位授與及ヒ取消ニ關スル事項

四、其ノ他學長ヨリ諮詢シタル事項

第四條 豫科教授會並ニ神道部高等師範部教授會ノ審議事項ハ第三項ヲ除ク外前條ノ規程ニ準ス

第五條 學部教授會ハ毎月第一火曜日豫科教授會ハ毎月第二水曜日高等師範部教授會ハ毎月第三木曜日トス(七、八月ヲ除ク)

但シ議事ノ要件ナキトキハ前日マテニ休會ヲ通知スヘシ

學長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ臨時ニ教授會ヲ開クコトアルヘシ

第六條 學長ニ於テ必要ト認メタルトキハ本大學全部ノ教員總會ヲ召集スルコトアルヘシ

國學院大學學位規程

第一條 本大學ニ於テ授クル學位ハ文學博士トス

第二條 本大學研究科ニ二箇年以上在學シタル者ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スルコトヲ得

第三條 前條ニ該當スル者ノ外論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スル者ハ願書ニ履歷書及ヒ手數料金百圓ヲ添ヘ願出ツヘシ論文ハ一篇ニ限ル但シ參考トシテ他ノ論文ヲ附加スルハ妨ナシ

第四條 論文ノ提出アリタルトキハ學長ハ學部教員中ヨリ二名以上ニ審査員ヲ囑託シ之カ審査ヲ行ハシム審査ハ特別ノ事項ナキ限リ六箇月以内ニ之ヲ終了スルモノトス

第五條 審査員ハ論文ノ要旨ヲ添ヘテ學長ニ報告シ學長ハ之ヲ教授會ノ議ニ附シテ之ヲ決ス

二九

第六條 教授會ニ於テ學位ヲ授與スヘキモノト議決シタルトキハ本大學ハ文部大臣ノ認可ヲ得テ學位ヲ授與ス

第七條 本大學ニ於テ學位ヲ授與セラレタル者其ノ榮譽ヲ汚辱スル行爲アリト認ムルトキハ本大學ハ教授會ノ議決ヲ經文部大臣ノ認可ヲ得テ學位ノ授與ヲ取消ス

第八條 學位授與若クハ授與取消ニ關スル教授會ハ教授數三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議決スルコトヲ得ス

第九條 學位授與ノ議事ハ出席教授三分ノ二以上授與取消ノ議事ハ出席教授ノ四分ノ三以上ノ多數ニ依リテ之ヲ決ス決議ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第十條 學位記ノ様式左ノ如シ

族籍 氏 名

右ハ本大學研究科ニ於テ規定ノ研究ヲ卒ヘ論文ヲ提出シテ教授會ノ審査ニ合格セリ仍テ學位令第二條ニ依リ茲ニ學位ヲ授ク

年 月 日

學 位 記

族籍 氏 名

右ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ本大學教授會ノ審査ニ合格セリ仍テ學位令第二條ニ依リ茲ニ學位博士ノ學位ヲ授ク

年 月 日

國 學 院 大 學

大 學 令

(勅令第三百八十八號、大正七年十二月六日) 改正昭和三年七號

第一條 大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ理論及應用ヲ教授シ並其ノ蘊奧ヲ攻究スルヲ以テ目的ト

シ兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ留意スヘキモノトス

第二條 大學ニハ數個ノ學部ヲ置クヲ常例トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ單一一個ノ學部ヲ置クモノヲ以テ一大學ト爲スコトヲ得

學部ハ法學、醫學、工學、文學、理學、農學、經濟及商學ノ各部トス

特別ノ必要アル場合ニ於テ實質及規模一學部ヲ構成スルニ適スルトキハ前項ノ學部ヲ分合シテ學部ヲ設クルコトヲ得

第三條 學部ニハ研究科ヲ置クヘシ

數個ノ學部ヲ置キタル大學ニ於テハ研究科間ノ聯絡協調ヲ期スル爲之ヲ綜合シテ大學院ヲ設クルコトヲ得

第四條 大學ハ帝國大學其ノ他官立ノモノノ外本令ノ規定ニ依リ公立又ハ私立ト爲スコトヲ得

第五條 公立大學ハ特別ノ必要アル場合ニ於テ北海道、府縣及市ニ限り之ヲ設立スルコトヲ得

第六條 私立大學ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 前條ノ財團法人ハ大學ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ大學ヲ維持スル

ニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第八條 公立及私立ノ大學ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ學部ノ設置廢止亦同シ

前項ノ認可ハ文部大臣ニ於テ勅裁ヲ請フヘシ

第九條 學部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該大學豫科ヲ修了シタル者、高等學校高等科ヲ卒リタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス

入學ノ順位ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 學部ニ三年以上在學シ一定ノ試験ヲ受ケ之ニ合格シタル者ハ學士ト稱スルコトヲ得前項ノ在學年限ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上トス

第十一條 研究科ニ入ルコトヲ得ル者ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上其ノ他ノ者ニ在リテハ三年以上當該學部ニ在學シ其ノ他相當ノ學力ヲ具ヘタル者ニシテ當該學部ニ於テ適當ト認めタルモノトス

第十二條 大學ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得

大學豫科ニ於テハ高等學校高等科ノ程度ニ依リ高等普通教育ヲ爲スヘシ

第十三條 大學豫科ノ修業年限ハ三年又ハ二年トス

修業年限三年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

修業年限二年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十四條 大學豫科ノ設備、編制、教員及教科書ニ付テハ高等學校高等科ニ關スル規定ヲ準用ス

第十五條 大學豫科ノ生徒定數ハ毎年ノ豫科修了者ノ員數カ其ノ年當該大學ニ收容シ得ル員數ヲ超過セサル程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十六條 大學及大學豫科ノ學則ハ法令ノ範圍内ニ於テ當該大學之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受ク

ヘシ

第十七條 公立及私立ノ大學ニハ相當員數ノ專任教員ヲ置クヘシ

第十八條 私立大學ノ教員ノ採用ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ公立大學ノ教員ニシテ官吏ノ待遇ヲ受ケサル者ニ付亦同シ



第十九條 公立及私立ノ大學ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第二十條 文部大臣ハ公立及私立ノ大學ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大學ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ大學タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ大學ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ大學タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウル學校ニハ當分ノ内第二十一條ノ規定ヲ適用セス

學位令

大正九年七月六日
勅令第二百號

第一條 學位ハ博士トス

第二條 學位ハ大學ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ授與ス

第三條 博士ノ種類ハ大學ニ於テ之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 第四條 學位ヲ授與セラルヘキ者ハ大學學部研究科ニ於テ二年以上研究ニ從事シ論文ヲ提出シテ學部教員會ノ審査ニ合格シタル者又ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ學部教員會ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者トス
- 第五條 學部教員會ハ前條ノ論文審査ニ付其ノ提出者ニ對シ試問ヲ行フコトヲ得
- 第六條 大學ニ於テ學位授與ノ認可ヲ申請スルトキハ論文及其ノ審査ノ要旨ヲ添附スヘシ
- 第七條 學位ヲ授與セラレタル者ハ授與ノ日ヨリ六月内ニ其ノ提出ニ係ル論文ヲ印刷公表スヘシ但シ學位授與前既ニ印刷公表セラレタルモノナルトキ又ハ文部大臣ニ於テ其ノ印刷公表ヲ相當ナラスト認メタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 大學ハ論文ノ審査ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得
- 第九條 學部教員會ニ於ケル論文審査ノ手續其ノ他學位ニ關スル規程ハ大學ニ於テ之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十條 學位ヲ有スル者其ノ榮譽ヲ汚辱スル行爲アルトキハ大學ニ於テ學位ニ關スル規程ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經テ學位ノ授與ヲ取消スコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年勅令第三百四十四號學位令及博士會規則ハ之ヲ廢止ス但シ舊令ニ依リ授與シタル學位ハ仍其ノ効力ヲ有ス

本令施行前論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シタル者ニ對シテハ舊令ニ依リ學位ヲ授與ス舊令ニ依ル學位ヲ有スル者其ノ榮譽ヲ汚辱スル行爲アルトキハ文部大臣其ノ學位ヲ褫奪ス

高等學校令

大正七年十二月六日
勅令第三百八十九號

- 第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス
- 第二條 高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス
- 第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス
- 第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ

維持スルニ足ルヘキ収入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス 專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得

專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校

ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第

四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項

ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅令規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス

高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

專 門 學 校 令

(明治三十六年三月二十七日
勅令第六十一號
改正勅令第八號)

第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス

專門學校ニ於テハ人格ノ陶冶及國體觀念ノ養成ニ留意スヘキモノトス

專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 北海道府縣又ハ市ハ土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ限り專門學校ヲ設置スルコトヲ得

第三條 私人ハ專門學校ヲ設置スルコトヲ得

第四條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ美術音樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得

前項檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス

第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

公立又ハ私立ノ專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第九條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 公立又ハ私立ノ專門學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

文部大臣ハ公立又ハ私立ノ專門學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 公立ノ專門學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニハ之ヲ減免シ又ハ徵收セサルコトヲ得

第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ス

附 則

第十三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治二十年勅令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

第十五條 既設ノ公立又ハ私立ノ學校ニシテ本令ニ依ルヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ第四條ニ準シ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササルモノハ前項ノ期間ノ滿了ト共ニ廢校シタルモノト看做ス

第一項ノ手續ヲ爲スモ不認可ノ命令ヲ受ケタルモノハ其ノ命令ヲ受ケタル日ニ於テ廢校シタルモノト看做ス

第十六條 千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學專門學校、東京外國語學校、東京美術學校及東京音樂學校ハ本令施行ノ日ヨリ專門學校トス

國學院大學學則

四四

第一章 總則

- 第一條 本大學ハ大學令ニ依リ道義國史國文及之カ研究應用ニ須要ナル諸學科ヲ學修研鑽セシメ國家有用ノ人物ヲ養成スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本大學ハ學部大學豫科及研究科ヲ以テ構成ス
- 第三條 在學年限ハ學部三年大學豫科二年研究科二年トス
- 第四條 大學豫科ハ高等普通教育ヲ施スト同時ニ學部ニ入ラントスル者ノ爲ニ豫備教育ヲ授クル所トス
- 第五條 研究科ハ學士試驗合格者ノ更ニ深ク其ノ蘊奧ヲ攻究スル所トス
- 第六條 學士試驗合格者ハ大學令第十條ニ依リ文學士ト稱スルコトヲ得

第二章 學年學期休業日

- 第七條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第八條 學年ヲ分チテ三學期トス
第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル
- 第九條 休業日左ノ如シ
日曜日 祝祭日 本大學記念日(十一月四日)
春季休業 自四月一日 至四月十日
夏季休業 自七月十六日 至九月十日
冬季休業 自十二月二十六日 至一月八日

第三章 入學 在學 休學 復學

- 第十條 入學時期ハ學年ノ始トス
- 第十一條 學部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本大學豫科ヲ修了シタル者タルヘシ
但シ缺員アル場合ニ限り左記各號ノ一ニ該當スル者ハ銓衡ノ上入學ヲ許可スルコトアルヘシ

四五

一、高等學校高等科卒業者

二、大學令ニ依ル大學ノ學部卒業者又ハ學士試驗合格者

三、大學令ニ依ル大學ノ大學豫科修了者

四、大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ指定セラレタル學校卒業者

第十二條 大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

一、中學校卒業者

二、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者

三、文部大臣ニ於テ一般專門學校ノ入學ニ關シ中學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第十三條 研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本大學學士試驗合格者タルコトヲ要ス

大學令ニ依ル大學ノ學部卒業者又ハ學士試驗合格者ニシテ入學ヲ願出ツル者アルトキハ銓衡ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條 入學志願者ハ所定ノ入學願書ニ入學檢定料ヲ添へ願出ツヘシ

第十五條 本大學豫科修了者ニシテ直ニ學部ニ入學スル者ハ前條ノ手續ヲ要セス

但シ其ノ學修セントスル學科ヲ四月三十日限り届出ツヘシ

第十六條 學生轉科ヲ出願スル時ハ學年ノ始ニ限り銓衡ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行フ 選抜試驗ノ學科目ハ其ノ都度之ヲ定ム

第十八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ宣誓名簿ニ記名シ入學金ヲ添へ左記書類ヲ差出スヘシ

一、履歷書

二、戶籍謄本

三、(イ)第十二條第一號及第三號該當者ニ在リテハ卒業ニ關スル當該學校長ノ證明書

(ロ)第十二條第二號該當者ニ在リテハ合格證明書

但シ第十二條第三號該當者ニシテ師範學校卒業者ニ在リテハ前記ノ外地方長官ノ入學承認書又ハ服務義務終了證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

四、甲乙保證人連署ノ在學證書

保證人ハ其ノ父兄(父兄ナキモハ親戚)ヲ甲保證人トシ本大學所在地又ハ其ノ附近ノ地ニ於テ一家ヲ立ツル身元確實ナル成年ノ男子ヲ乙保證人トシ其ノ學生生徒在學中ニ於ケル一切ノ責

ニ任スヘキモノトス 但シ父兄ノ本大學所在地又ハ其ノ附近ノ地ニ住居スル者ハ乙保證人ヲ要セス

第十九條 本大學豫科修了者ニシテ直ニ學部ニ入學スル者又ハ本大學學士試驗合格者ニシテ直ニ研究科ニ入學スル者ハ前條ノ手續ヲ要セス

第二十條 保證人轉居改氏名ノトキハ直ニ届出ツヘク死亡シタル場合ニハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ届出ツヘシ

第二十一條 學生生徒事故若クハ病氣ニ因リ缺席スルトキハ其ノ旨届出ツヘシ 但シ一週間以上ニ亘ルトキハ保證人ノ連署ヲ要シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第二十二條 病氣又ハ兵役ノ義務ニ因リ休學セントセル者ハ保證人連署ノ上願出ツヘシ 但シ病氣ニ因ル者ノ休學期間ハ一箇年ヲ越ユルコトヲ得ス

第二十三條 一旦退學シタル者復學セントスルトキハ退學二年以内ニ限り銓衡ノ上許可スルコトアルヘシ 但シ學部ニ在リテハ退學以前ノ在學期間及修了科目ヲ第三十八條第四十條所定ノ在學年限並ニ單位數ニ通算シ大學豫科ニ在リテハ原學年以下ニ編入スルモノトス

第四章 入學檢定料 入學金 授業料

第二十四條 入學檢定料及入學金ハ各金五圓トス

第二十五條 授業料ハ學部年額金百拾圓大學豫科年額金九拾圓研究科年額金八拾圓トシ每學年四月

二十五日迄ニ之ヲ納付スヘシ

但シ三期ニ分納セントスル者ハ左表ニ依リ納付スヘシ

學 期	納付期日	學 部	大 學 豫 科	研 究 科
第一學期	四月二十五日迄		金參拾五圓	金參拾圓
第二學期	九月二十日迄		金參拾圓	金參拾圓
第三學期	一月十五日迄		金貳拾圓	金貳拾圓

第二十六條 授業料ノ納付ヲ怠リタル者ハ之ヲ除籍ス

第二十七條 學生生徒事故若クハ病氣ノタメ缺席スルモ授業料ヲ減免セララルコトナシ 但シ兵役ノ義務ニ因ル休學期間ハ此限ニ在ラス

第二十八條 既納ノ入學檢定料及入學金授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第五章 賞 罰

第二十九條 學生生徒ニシテ品行端正學術優等ナル者ハ學年ノ終ニ於テ次學年ノ特待生ニ選定ス
特待生ニ對シテハ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

第三十條 正當ノ理由ナクシテ三箇月以上引續キ缺席シタル者出席常ナラサル者又ハ學業劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者ハ之ヲ除籍ス

第三十一條 本學則ニ違反シ又ハ學生生徒ノ本分ニ背反セル行爲アリタルモノハ其ノ情狀ノ輕重ニ從ヒ戒飭停學或ハ退學ニ處ス

第六章 學 部

第三十二條 學部ニ左ノ專修學科ヲ置ク

道義學科
國史學科

國文學科

道義學科ヲ分チテ倫理科及哲學科トス

第三十三條 學部ノ授業ヲ分チテ講義及演習トシ原則トシテ一學年每週二時間ノ授業ヲ以テ一單位トス

第三十四條 學部ニ開設スル講義及演習左ノ如シ

- 帝國憲法(一) 古事記(一) 日本書紀(一) 神道概論(一) 神道(三)
- 皇室典範(一) 倫理學概論(一) 倫理學(一) 日本倫理學(二) 東洋倫理學(一)
- 國民道德(二) 哲學概論(一) 東洋哲學(一) 東洋哲學史(二) 西洋哲學(二)
- 西洋倫理學(一) 哲學概論(一) 心理學(一) 美學(一) 社會學(一)
- 西洋哲學史(二) 論理學(一) 佛敎概論(一) 國史學(六) 日本法制史(二) 東洋史學(二)
- 宗敎學(一) 史學研究法(一) 古文書學(一) 文學概論(一) 國文學史(二)
- 西洋史學(二) 言語學(一) 比較言語學(一) 支那文學史(一) 道義學演習(二)
- 國語學(二) 國史學演習(四) 國文學演習(六) 漢文學演習(四) 經濟學史(一)
- 哲學演習(二) 國史學演習(四) 禮典(一) 國學史(一) 日本宗敎史(一)
- 教育學(一) 教育史(一) (實習ヲ含ム)

日本美術史(一) 日本音樂史(一) 歷史地理(一) 有職故實(一) 考古學(一)
人類學(一) 圖書館學(一) 外國語學(二)

以上ノ外時宜ニ依リ講義又ハ演習ヲ開設スルコトアルヘシ

第三十五條 每學年開設スヘキ講義及演習ハ其ノ學年ノ始ニ於テ之ヲ定ム

第三十六條 學生ハ講義及演習ヲ合セテ每學年八單位以上ヲ學修スヘシ

第三十七條 學生ハ每學年學修セントスル科目ヲ學年ノ始ニ届出ツヘシ 届出ラナササル科目ハ之ヲ學修スルコトヲ許サス

第三十八條 學生ハ三學年間ニ左記共通科目及各專修學科ニ於ケル必修科目並ニ外國語學二單位ヲ學修スルコトヲ要シ其ノ他ハ本大學開設ノ講義及演習中ニツキ選擇履修スヘシ

共通科目(四單位)

帝國憲法(一) 古事記(一) 日本書紀(一) 神道概論(一)
皇室典範(一)

道義學科倫理科必修科目(十三單位)

神道(二) 國民道德(二) 倫理學概論(一) 日本倫理學史(一) 東洋倫理學史(一)

西洋倫理學史(一) 哲學概論(一) 社會學(一) 宗教學(一) 道義學演習(二)

道義學科哲學科必修科目(十三單位)

哲學概論(一) 東洋哲學(一) 東洋哲學史(二) 西洋哲學(二) 西洋哲學史(二)
社會學(一) 東洋倫理學史(一) 西洋倫理學史(一) 哲學演習(二)

國史學科必修科目(十三單位)

國史學(四) 日本法制史(一) 東洋史學(二) 西洋史學(二) 史學研究法(一)
古文書學(一) 國史學演習(二)

國文學科必修科目(十三單位)

文學概論(一) 國文學史(二) 國語學(一) 言語學(一) 國文學演習(五)
漢文學演習(三)

第三十九條 外國語學ハ英語トス

外國語學ノ學修期間ヲ前期後期ノ二期ニ分チ第一學年ヲ前期トシ第二學年ヲ後期トス
外國語學ハ一學年毎週四時間ノ授業ヲ以テ一單位トシ學生ハ每期一單位ヲ學修スルコトヲ要ス

外國語學ハ前期ノ課程ヲ修了シタル者ニアラサレハ後期ノ課程ヲ學修スルコトヲ得ス

第四十條 共通科目必修科目外國語學及選擇科目ヲ合セテ二十四單位以上ヲ修了シ尙論文試驗ニ合格シタル者ヲ以テ學士試驗合格者トス

第四十一條 科目ノ修了ハ試驗ニヨル

但シ外國語學ニアリテハ每期ノ終ニ修了試驗ヲ行フ外ニ第二學期中ニ於テ臨時試驗ヲ行フモノトス

第四十二條 修了試驗ヲ受ケントスル者ハ一月三十一日迄ニ受験科目ヲ届出ツヘシ

第四十三條 三箇月以上休學シタル者ハ其ノ學年ノ修了試驗ヲ受クルコトヲ許サス

第四十四條 論文ノ題目ハ專修學科ノ範圍内ニ於テ之ヲ定メ指導教員ノ承認ヲ經テ第三學年ノ九月三十日ヲ限リ大學長ニ届出ツヘシ

第四十五條 論文ハ十二月二十五日ヲ限リ之ヲ提出スヘシ

第四十六條 試驗成績ノ判定ハ百點ヲ以テ滿點トシ六十點以上ヲ以テ合格トス

第四十七條 學士試驗合格者ニシテ中等學校又ハ高等學校教員無試驗檢定ヲ受ケントスル者ハ文部省告示ニ規定セラレタル科目ヲ選擇履修スヘク皇典講究所ノ學階ヲ受ケントスル者ハ禮典一單

位ヲ選擇履修スヘシ

第四十八條 論文試驗ニ合格シタル者ニシテ病氣又ハ特別ノ事故ニ因リ修了試驗ニ缺席シタルトキハ願ニ依リ追試驗ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十九條 在學六年ニ及ヒテ尙學士試驗ニ合格セサル者ハ之ヲ除籍ス但シ休學期間ハ之ヲ算入セス

第七章 大學豫科

第五十條 大學豫科各學年ノ學科課程及每週授業時數左ノ如シ

學科目	學年	
	第一學年	第二學年
道義	一	一
國語	五	五
漢文	四	四
	講讀	講讀
	文法	文法
	作文	作文
	作歌	作歌
	修辭學	修辭學

英語	一〇	講讀 文法 會話 作文 書取	九	講讀 文法 作文 書取
獨逸語	(三)	講讀 文法	(三)	講讀
歷史	五	國史 東洋史	五	國史 西洋史
哲學概論			二	
心理學	一			
論理學	一			
法制及經濟	二		二	
自然科學			二	
體操	四	武道 教練	二	教練
計	三三三 (三)		三三二 (三)	

獨逸語ハ隨意科目トス

第五十一條 試驗ヲ分チテ學期試驗學年試驗ノ二種トシ學期試驗ハ第二學期中ニ於テ之ヲ行ヒ學年試驗ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第五十二條 試驗成績ノ判定ハ百點ヲ以テ滿點トシ各科目五十點以上平均六十點以上ヲ以テ合格トス
 學年成績ハ學期試驗及學年試驗ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定メ修了成績ハ各學年成績ヲ通約シテ之ヲ定ム

第五十三條 病氣又ハ特別ノ事故ニ因リ學年試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ願ニ依リ追試驗ヲ許可スルコトアルヘシ

第五十四條 引續キ二回學年試驗ニ合格セサル者ハ之ヲ除籍ス

第八章 研究科

第五十五條 研究科學生ハ大學長ノ承認ヲ經テ指導教員ヲ定メ研究事項ニツキテ其ノ指導ヲ受クヘシ
 第五十六條 研究科ニハ別ニ學科課程ヲ設ケス 但シ時宜ニヨリ講義ヲ開設スルコトアルヘシ
 第五十七條 研究科學生ハ大學長ノ許可ヲ受ケ本大學開設ノ講義ヲ聽講シ又ハ演習ニ出席スルコトヲ得
 第五十八條 研究科學生ハ每學年ノ終ニ於テ其ノ研究シタル事項ニツキ報告書ヲ作製シ指導教員ヲ

經テ大學長ニ提出スヘシ

第五十九條 研究科學生ハ特ニ大學長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ他ノ業務ニ從事シ又ハ本大學所在地若クハ其ノ附近以外ノ地ニ居住スルコトヲ得ス

第六十條 研究科學生ニシテ引續キ研究セントスル場合ハ更ニ三年以内在學期間ヲ延長スルコトヲ得

第六十一條 第五十八條ノ報告ヲ怠リ若クハ其ノ成績不良ナル者ハ之ヲ除籍ス

第六十二條 研究科學生其ノ研究シタル事項ニツキ論文ヲ提出シ學位ヲ申請シタルトキハ大學長ハ學部教授會ニ之カ審査ヲ行ハシメ其ノ成績ニヨリ文學博士ノ學位ヲ授ク
學位ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第九章 選科生 聽講生

第六十三條 相當ノ學歷ヲ有シ本大學學部開設ノ科目中數科目ヲ選ヒテ學修セントスル者アルトキハ學力考査ノ上選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ 但シ外國語學ヲ選フコトヲ許サス

第六十四條 選科生ハ其ノ學修セントスル科目ヲ定メ毎學年ノ始ニ於テ願出ツヘシ

第六十五條 選科生ニシテ皇典講究所學階ヲ得ントスル者ハ三學年以上在學シ禮典一單位ヲ合セニ十五單位以上(第三十八條ノ共通科目及必修科目ヲ含ム)ヲ修了スルコトヲ要ス

第六十六條 相當ノ學力ヲ有シ本大學學部開設ノ科目中一科目以上ヲ選ヒ聽講セントスル者アルトキハ每學年ノ始ニ於テ銓衡ノ上聽講生トシテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第六十七條 聽講生ニ對シテハ試験ヲ行ハス

第六十八條 選科生及聽講生ノ授業料ハ年額金百拾圓トス 但シ第二十五條學部ノ規程ニ準シ之ヲ三期ニ分納スルコトヲ得

第六十九條 選科生及聽講生ニ對シテハ本章規程ノ外一般學則ヲ適用ス

第十章 給費貸費

第七十條 本大學學生生徒(選科生及聽講生ヲ除ク)ニシテ學術優等品行端正ナル者ニハ其ノ請願ニ依リ學資ヲ給與若クハ貸與スルコトアルヘシ
給費貸費ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第七十一條 本學則ハ昭和五年四月一日以後入學ノ者ヨリ之ヲ適用ス

但シ昭和四年度以前ニ入學シ本學則施行ノ際現ニ在籍スル學生生徒（聽講生ヲ除ク）ノ學修及修了ニ關シテハ舊學則第十一條及第十二條ノ規定ニ據ルコトヲ得

又昭和四年度以前ニ入學シ本學則施行ノ際現ニ學部大學豫科又ハ研究科ニ在籍スル學生生徒（聽講生ヲ除ク）ノ授業料ニ關シテハ昭和八年度末迄舊學則ヲ適用ス

國學院大學附屬神道部規程

第一章 總 則

第一條 國學院大學附屬神道部ハ專門學校令ニ依リ神祇道義歷史及國文ニ關スル高等ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條 修業年限ハ四年トス

第三條 生徒ヲ分チテ本科生、別科生トス

第二章 學 科 課 程

第四條 各學年ノ學科課程及每週授業時數左ノ如シ

道 義	學 科	學 年	每 週 授 業 時 數
四	國民道徳 倫理學	第一學年	四
四	神道概論 日本倫理學史	第二學年	四
四	國民道徳史 祭祀概論	第三學年	四
六	思想問題概説 東洋倫理學史 西洋倫理學史	第四學年	六

國文	六	講讀、祝詞及祝文、作法、文法、習字	二	講讀	二	講讀、祝詞及祝文、作法、文法、習字	五	講讀、文學史	四	講讀、文學史
	二	講讀	二	講讀	二	講讀	二	講讀	二	講讀
漢文	二	講讀	二	講讀	二	講讀	二	講讀	二	講讀
歷史	八	國史、神祇史、東洋史、西洋史	二	國史、神祇史、東洋史、古事記	九	國史、日本書紀、東洋史、西洋史	八	國史、古文書、古史、古史研究法	二	國史、古文書、古史、古史研究法
地理			二	地理學概論					三	教授法教育學
教育									二	宗教學及宗教史
哲學	二	心理學、論理學	二	哲學及哲學史						
法	四	憲法及皇室典範、法學通論、神祇法	三	皇室制度、神祇法	三	祭祀令、日本法制史	三	古代法制、神祇制度		
禮典	三	祭式其他ノ行事、國民禮法	二	祭式其他ノ行事、實習(雅樂)	四	祭式其他ノ行事、衣紋調度、實習(雅樂)	四	祭式其他ノ行事、實習、神社實務		
英語	三	講讀及作文文法	二	同上	二	同上	二	同上		
體操	四	武道、教練	二	教練	二	同上	二	同上		
合計	三六		三五		三五		三六			

備考 歴史ハ四科目道義ハ二科目トス、第二、第三學年ノ雅樂ハ隨意科目トス

第三章 學年學期休業日

第五條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第七條 休業日左ノ如シ

日曜日、祝祭日、本大學記念日(十一月四日)

春季休業 自四月一日 至四月十日 夏季休業 自七月十六日 至九月十日 冬季休業 自十二月二十六日 至一月八日

第四章 入學在學休學復校

第八條 入學時期ハ學年ノ始トス

第九條 本科生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

一、中學校卒業者

二、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格者

三、專門學校入學者檢定規程ニ依リ一般專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者

第十條 別科生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

一、小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

二、尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

三、小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

四、小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者

第十一條 入學志願者ハ所定ノ入學願書ニ修學證明書及入學檢定料ヲ添ヘテ願出ツヘシ

第九條第三號ニ該當スル者ニシテ師範學校卒業者ハ服務義務年限終了ニ關スル地方長官ノ承認

書ヲ添附スヘシ

第十二條 入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行フ選抜試驗ノ學科目ヲ定ムル

コト左ノ如シ

本科生 國史、國語（講讀作文）、漢文、英語

別科生 歴史、國語（講讀作文）、漢文、英語、外國地理、數學（算術、代數）

第十三條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ宣誓名簿ニ記名シ入學金ヲ添ヘテ在學證書及戶籍謄本ヲ差出スヘシ

保證人ハ其ノ父兄（父兄ナキ者ハ親戚）ヲ甲保證人トシ本大學所在地又ハ其ノ附近ノ地ニ於テ一家ヲ立ツル身元確實ナル者ヲ乙保證人トシ其ノ生徒在學中ニ於ケル一切ノ責ニ任スヘキモノトス

但シ父兄ノ本大學所在地又ハ其ノ附近ニ居住スル者ハ乙保證人ヲ要セス

第十四條 保證人轉居改氏名ノトキハ直ニ届出ツヘク死亡シタル場合ニハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ届出ツヘシ

第十五條 生徒事故若クハ病氣ニ因リ缺席スルトキハ其ノ旨届出ツヘシ 但シ一週間以上ニ亘ルトキハ保證人ノ連署ヲ要シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第十六條 病氣又ハ兵役ノ義務ニ因リ休學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出ツヘシ 但シ病氣ニ因ルモノ、休學期間ハ一ケ年ヲ越ユルコトヲ得ス

第十七條 一旦退學シタル者復校セントスルトキハ退學二年以内ニ限り銓衡ノ上原學年以下ニ編入スルコトアルヘシ

六六

第五章 入學檢定料 入學金 授業料

第十八條 入學檢定料及入學金ハ各金五圓トス

第十九條 授業料ハ年額金九拾圓トシ毎學年四月二十五日迄ニ之ヲ納付スヘシ 但シ三期ニ分納セントスル者ハ左表ニ依リ納付スヘシ

第一學期 四月二十五日迄 金參拾五圓

第二學期 九月二十日迄 金參拾圓

第三學期 一月十五日迄 金貳拾五圓

第二十條 授業料ノ納付ヲ怠リタル者ハ除籍ス

第二十一條 生徒事故若クハ病氣ノタメ缺席セルモ授業料ヲ減免セラル、コトナシ 但シ兵役ノ義務ニ因ル休學期間ハ此限ニ非ス

第二十二條 既納ノ入學檢定料入學金及授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第六章 試験及成績判定

第二十三條 試験ヲ分チテ學期試験學年試験ノ二種トシ學期試験ハ第二學期中ニ於テ之ヲ行ヒ學年試験ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第二十四條 試験成績ノ判定ハ百點ヲ以テ滿點トシ道義國文歴史教育哲學ノ各科目六十點以上其ノ他ノ各科目五十點以上平均六十點ヲ以テ合格トス 學年成績ハ學期試験及學年試験ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定メ卒業成績ハ各學年ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定ム

第二十五條 病氣又ハ特別ノ事故ニ因リ學年試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ願ニ依リ追試験ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十六條 引續キ二回學年試験ニ合格セサル者ハ之ヲ除籍ス

第七章 賞 罰

第二十七條 生徒ニシテ品行端正學術優等ナル者ハ特待生ニ選定ス

特待生ニ對シテハ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

六七

第二十八條 正當ノ理由ナクシテ三箇月以上引續キ缺席シタル者出席常ナラサル者又ハ學業劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者ハ之ヲ除籍ス

第二十九條 本規程ニ違反シ又ハ生徒ノ本分ニ背反スル行爲アリタル者ハ其ノ情狀ノ輕重ニ從ヒ戒飭停學或ハ退學ニ處ス

第八章 選科生 聽講生

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ第四條規定ノ學科目中數科目ヲ選ヒ學修セントスル者アルトキハ學力考査ノ上選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、内務大臣ノ委託ニ依ル皇典講究所神職養成部教習料(乙種)ヲ卒業シタル者

二、内務大臣ノ委託ニ依ル皇典講究所神職養成部ヲ卒業シタル者

三、皇典講究所ノ認定セル地方神職養成所ノ課程ヲ修了シ一等司業ヲ得タル者

第三十一條 選科生ハ其ノ學習セントスル學科ヲ定メ毎學年ノ始ニ於テ願出ツヘシ

第三十二條 相當ノ學力ヲ有シ第四條ノ學科目中一科目以上ヲ選ヒ聽講セントスル者アルトキハ每學年ノ始ニ於テ銓衡ノ上聽講生トシテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十三條 選科生及聽講生ノ授業料ハ年額九拾圓トス 但シ第十九條ノ規定ニ準シ之ヲ三期ニ分納スルコトヲ得

第三十四條 聽講生ニ對シテハ試験ヲ行ハス

第三十五條 選科生及聽講生ニ對シテハ本章所定ノ外一般規程ヲ適用ス

第九章 給 費 貸 費

第三十六條 生徒(選科生及聽講生ヲ除ク)ニシテ學術優等品行端正ナル者ニハ其ノ請願ニ依リ學費ヲ給與若クハ貸與スルコトアルヘシ

給費貸費ニ關スル所定ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

(イ) 本改正規程ハ昭和十一年四月入學ノモノヨリ之ヲ適用ス

(ロ) 舊規程ニヨル在學生ニシテ昭和十年度第一學年ニ於テ進級シ得サルモノ昭和十一年度第一學

年ニ於テ進級シ得サルモノ昭和十二年度第三學年ニ於テ卒業シ得サルモノハ改正規程ノ相當學年ニ編入スルモノトス

國學院大學附屬神道部規程(舊)

第一章 總 則

- 第一條 國學院大學附屬神道部ハ專門學校令ニ依リ神祇道義歷史及國文ニ關スル高等ノ學術ヲ教授スル所トス
- 第二條 修業年限ハ三年トス
- 第三條 生徒ヲ分チテ本科生、別科生トス

第二章 學 科 課 程

第四條 各學年ノ學科課程及每週授業時數左ノ如シ

學科	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
道義	四 國民道德、倫理學	三 神道要論、神道書、國民道德書解題	二 國民道德史
國文	六 講讀、祝詞及祝詞作法、文學史、文法作文作歌	七 講讀祝詞及祝詞作法、文學史、文法作文作歌	二 講讀作文作歌
	時數 每週	時數 每週	時數 每週

漢文	二講讀	國史	國史、國史演習	二講讀
	二講讀	國史	國史、國史演習	二講讀
	二講讀	國史、國史演習	國史、國史演習	二講讀
歷史	九	神祇史、古事記	神祇史、日本書紀	二
	二	神祇史、古事記	神祇史、日本書紀	二
	二	神祇史、古事記	神祇史、日本書紀	二
地理				二地理學概說
				二地理學概說
				二地理學概說
教育				三教授法、教育學
				三教授法、教育學
				三教授法、教育學
哲學	二	心理學、論理學	哲學概論	四社會學、宗教學
	二	心理學、論理學	哲學概論	四社會學、宗教學
	二	心理學、論理學	哲學概論	四社會學、宗教學
法制	四	憲法及皇室典範 法學通論、神社概說	皇室制度、祭祀令 神社法令	三日本法制史
	四	憲法及皇室典範 法學通論、神社概說	皇室制度、祭祀令 神社法令	三日本法制史
	四	憲法及皇室典範 法學通論、神社概說	皇室制度、祭祀令 神社法令	三日本法制史
禮典	三	神社祭式 國民禮法	神社祭式 樂式	二神社祭式 樂式
	三	神社祭式 國民禮法	神社祭式 樂式	二神社祭式 樂式
	三	神社祭式 國民禮法	神社祭式 樂式	二神社祭式 樂式
英語	三	講讀及作文文法	同上	三同上
	三	講讀及作文文法	同上	三同上
	三	講讀及作文文法	同上	三同上
體操	四	武 練道	二 教 練	二同上
	四	武 練道	二 教 練	二同上
	四	武 練道	二 教 練	二同上
計	三七		三六	三七

備考 歴史ハ四科目トス 第二、三學年ノ雅樂ハ隨意科トス

第三章 學年學期休業日

第五條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第七條 休業日左ノ如シ

日曜日、祝祭日、本大學記念日(十一月四日)

春季休業 自四月一日 至四月十日 夏季休業 自七月十六日 至九月十日 冬季休業 自十二月二十六日 至一月八日

第四章 入學在學休學復校

第八條 入學時期ハ學年ノ始トス

第九條 本科生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

一、中學校卒業者

二、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定合格者

三、專門學校入學者檢定規程ニ依リ一般專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者

第十條 別科生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

一、小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

二、尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

三、小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

四、小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者

第十一條 入學志願者ハ所定ノ入學願書ニ修學證明書及入學檢定料ヲ添ヘテ願出ツヘシ

第九條第三號ニ該當スル者ニシテ師範學校卒業者ハ服務義務年限終了ニ關スル地方長官ノ承認書ヲ添附スヘシ

第十二條 入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行フ選抜試驗ノ學科目ヲ定ムルコト左ノ如シ



本科生 國史、國語（講讀作文）、英語

別科生 歴史、外國地理、國語（講讀作文）、英語、數學（算術、代數）

第十三條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ宣誓名簿ニ記名シ入學金ヲ添ヘテ在學證書及戶籍謄本ヲ差出スヘシ

保證人ハ其ノ父兄（父兄ナキ者ハ親戚）ヲ甲保證人トシ本大學所在地又ハ其ノ附近ノ地ニ於テ一家ヲ立ツル身元確實ナル者ヲ乙保證人トシ其ノ生徒在學中ニ於ケル一切ノ責ニ任スヘキモノトス

但シ父兄ノ本大學所在地又ハ其ノ附近ニ居住スル者ハ乙保證人ヲ要セス

第十四條 保證人轉居改氏名ノトキハ直ニ届出ツヘク死亡シタル場合ニハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ届出ツヘシ

第十五條 生徒事故若クハ病氣ニ因リ缺席スルトキハ其ノ旨届出ツヘシ 但シ一週間以上ニ亘ルトキハ保證人ノ連署ヲ要シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第十六條 病氣又ハ兵役ノ義務ニ因リ休學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出ツヘシ 但シ病氣ニ因ルモノ、休學期間ハ一ケ年ヲ越ユルコトヲ得ス

第十七條 一旦退學シタル者復校セントスルトキハ退學二年以内ニ限り銓衡ノ上原學年以下ニ編入スルコトアルヘシ

七六

第五章 入學檢定料 入學金 授業料

第十八條 入學檢定料及入學金ハ各金五圓トス

第十九條 授業料ハ年額金九拾圓トシ毎學年四月二十五日迄ニ之ヲ納付スヘシ 但シ三期ニ分納セントスル者ハ左表ニ依リ納付スヘシ

第一學期 四月二十日迄 金參拾五圓

第二學期 九月二十日迄 金參拾圓

第三學期 一月十五日迄 金貳拾五圓

第二十條 授業料ノ納付ヲ怠リタル者ハ除籍ス

第二十一條 生徒事故若クハ病氣ノタメ缺席セルモ授業料ヲ減免セラル、コトナシ 但シ兵役ノ義務ニ因ル休學期間ハ此限ニ非ス

第二十二條 既納ノ入學檢定料入學金及授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス



第六章 試験及成績判定

第二十三條 試験ヲ分チテ學期試験學年試験ノ二種トシ學期試験ハ第二學期中ニ於テ之ヲ行ヒ學年試験ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第二十四條 試験成績ノ判定ハ百點ヲ以テ滿點トシ道義國文歴史教育哲學ノ各科目六十點以上其ノ他ノ各科目五十點以上平均六十點ヲ以テ合格トス 學年成績ハ學期試験及學年試験ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定メ卒業成績ハ各學年ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定ム

第二十五條 病氣又ハ特別ノ事故ニ因リ學年試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ願ニ依リ追試験ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十六條 引續キ二回學年試験ニ合格セサル者ハ之ヲ除籍ス

第七章 賞 罰

第二十七條 生徒ニシテ品行端正學術優等ナル者ハ特待生ニ選定ス

七七

特待生ニ對シテハ授業料ヲ免除スルコトアルハシ

第二十八條 正當ノ理由ナクシテ三箇月以上引續キ缺席シタル者出席常ナラサル者又ハ學業劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者ハ之ヲ除籍ス

第二十九條 本規程ニ違反シ又ハ生徒ノ本分ニ背反スル行爲アリタル者ハ其ノ情狀ノ輕重ニ從ヒ戒飭停學或ハ退學ニ處ス

第八章 選科生 聽講生

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ第四條規定ノ學科目中數科目ヲ選ヒ學修セントスル者アルトキハ學力考査ノ上選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、内務大臣ノ委託ニ依ル皇典講究所神職養成部教習科（乙種）ヲ卒業シタル者

二、内務大臣ノ委託ニ依ル皇典講究所神職養成部ヲ卒業シタル者

三、皇典講究所ノ認定セル地方神職養成所ノ課程ヲ修了シ一等司業ヲ得タル者

第三十一條 選科生ハ其ノ學習セントスル學科ヲ定メ毎學年ノ始ニ於テ願出ツヘシ

第三十二條 相當ノ學力ヲ有シ第四條ノ學科目中一學科以上ヲ選ヒ聽講セントスル者アルトキハ毎

學年ノ始ニ於テ銓衡ノ上聽講生トシテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十三條 選科生及聽講生ノ授業料ハ年額九拾圓トス 但シ第十九條ノ規定ニ準シ之ヲ三期ニ分納スルコトヲ得

第三十四條 聽講生ニ對シテハ試験ヲ行ハス

第三十五條 選科生及聽講生ニ對シテハ本章所定ノ外一般規程ヲ適用ス

第九章 給費貸費

第三十六條 生徒（選科生及聽講生ヲ除ク）ニシテ學術優等品行端正ナル者ニハ其ノ請願ニ依リ學費ヲ給與若クハ貸與スルコトアルヘシ
給費貸費ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第三十七條 本改正規程ハ昭和五年四月ヨリ之ヲ實施ス

國學院大學附屬高等師範部規程

第一章 總則

- 第一條 國學院大學附屬高等師範部ハ專門學校令ニ依リ道義歴史國文漢文ニ關スル高等ノ學術ヲ教授シ以テ中等學校教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 第二條 修業年限ハ四年トス
- 第三條 學科ヲ分チテ第一部第二部トシ生徒ヲ分チテ本科生別科生トス
- 第四條 第一部ニアリテハ道義國文漢文ヲ以テ主要科目トシ第二部ニアリテハ國文漢文歴史ヲ以テ主要科目トス
- 第五條 國學院大學附屬高等師範部卒業者ニシテ更ニ深ク道義國文漢文及歴史ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ專修科ヲ置ク

第二章 學科課程

第六條 第一部各學年ノ學科課程及每週授業時數左ノ如シ

漢文	國文				道義		學科	學年及每週時數
	第四	第三	第二	第一	第二	第一		
漢文法 漢作文	講讀	講讀	講讀	講讀	倫理學	國民道德	第一學年	每週授業時數 七
支那文學史	講讀	講讀	講讀	講讀	日本倫理學史	神道概論	第二學年	每週授業時數 七
漢籍文字學	講讀	講讀	講讀	講讀	東洋倫理學史	國民道德說史	第三學年	每週授業時數 八
漢籍時習	講讀	講讀	講讀	講讀	西洋倫理學史	思想問題概說	第四學年	每週授業時數 八

教	地	史 歷				文 漢				文 國			
		西 洋 史	東 洋 史	第 二 史	第 一 史	第 四	第 三	第 二	第 一	第 四	第 三	第 二	第 一
育	理	八				七				七			
二	○	西 洋 史	東 洋 史	國 史	國 史	漢 文 法	講 讀	講 讀	講 讀	修 辭 學 作 文 法	國 文 書 解 題 讀	講 讀	講 讀
教		七				七				七			
育		西 洋 史	東 洋 史	有 職 故 實 史	國 史	漢 文 法	支 那 文 學 史	講 讀	講 讀	作 文 學 歌	國 文 法 讀	講 讀	講 讀
學		七				七				七			
一	二	西 洋 史	東 洋 史	有 職 故 實 史	國 史	漢 文 法	支 那 文 學 史	講 讀	講 讀	作 文 學 歌	國 文 法 讀	講 讀	講 讀
教		七				七				八			
育		西 洋 史	東 洋 史	史 籍 解 題	日 本 文 化 史	漢 文 法	支 那 文 學 史	講 讀	講 讀	作 文 學 歌	國 文 法 讀	講 讀	講 讀
史		七				七				八			
一	二	西 洋 史	東 洋 史	史 籍 解 題	日 本 文 化 史	漢 文 法	支 那 文 學 史	講 讀	講 讀	作 文 學 歌	國 文 法 讀	講 讀	講 讀
教		九				八				八			
授		西 洋 文 化 史	東 洋 文 化 史	考 古 學 法	現 代 史	漢 文 法	支 那 文 學 史	講 讀	講 讀	作 文 學 歌	國 文 法 讀	講 讀	講 讀
法		九				八				八			
一	○	西 洋 文 化 史	東 洋 文 化 史	考 古 學 法	現 代 史	漢 文 法	支 那 文 學 史	講 讀	講 讀	作 文 學 歌	國 文 法 讀	講 讀	講 讀
教		九				八				八			
授		西 洋 文 化 史	東 洋 文 化 史	考 古 學 法	現 代 史	漢 文 法	支 那 文 學 史	講 讀	講 讀	作 文 學 歌	國 文 法 讀	講 讀	講 讀
法		九				八				八			
一	○	西 洋 文 化 史	東 洋 文 化 史	考 古 學 法	現 代 史	漢 文 法	支 那 文 學 史	講 讀	講 讀	作 文 學 歌	國 文 法 讀	講 讀	講 讀

第七條 第二部各學年ノ學科課程及每週授業時數左ノ如シ

備考 道義ハ二科目國文漢文ハ各四科目トス

學科	學年及每週授業時數		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
	時數	授業時數				
道義	二	二	國民道德	神道概論	東洋倫理學史	思想問題概說
國文	二	二	國文書解題讀	國文法讀	國文法讀	國文法讀
漢文	二	二	漢文法	支那文學史讀	支那文學史讀	支那文學史讀
英語	三	三	英語讀	英語讀	英語讀	英語讀
法制經濟	○	○	法學通論	經濟學	經濟學	皇帝室國憲法
自然科學	○	○	自然科學	自然科學	自然科學	社會學
哲學	二	二	心理學論理學	佛敎概論	宗敎美學	現代敎育思潮
敎育	二	二	敎育學	敎育史	敎授法	敎授法敎育法令
歷史	四	三	國史	國職故實史	日本文化史	西洋文化史
體育	四	二	武道敎練	敎練	敎練	敎練
合計	三三	三五	三五	三五	三五	三五

哲學	二	心理學	論理學	二	哲學概論	二	宗教學	二	社會學
法制經濟	〇			二	法學通論	二	經濟學	二	皇帝室國典憲法
英語	三	講讀	文法	三	講讀	文法	三	講讀	二
體操	四	武道	教練	二	教	練	二	教	練
合計	三五			三五			三六		三六

備考 國文漢文及歴史ハ各四科目トス

第三章 學年學期休業日

- 第八條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第九條 學年ヲ分チテ三學期トス
 - 第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
 - 第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
 - 第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十條 休業日左ノ如シ

- 日曜日 祝祭日 本大學記念日(十一月四日)
- 春季休業 自四月一日 至四月十日
- 夏季休業 自七月十六日 至九月十日
- 冬季休業 自十二月二十六日 至一月八日

第四章 入學在學休學復校

- 第十一條 入學時期ハ學年ノ始トス
- 第十二條 本科生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ
 - 一、中學校卒業者
 - 二、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者
 - 三、文部大臣ニ於テ一般專門學校ノ入學ニ關シ中學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 第十三條 別科生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ
 - 一、小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

二、尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

三、小學校專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

四、小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者

第十四條 入學志願者ハ所定ノ入學願書ニ入學檢定料ヲ添ヘテ願出ツヘシ

第十五條 志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行フ

選抜試驗ノ學科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一部第二部本科生 國史、國文（講讀作文文法）、漢文、英語

第一部第二部別科生 歴史、外國地理、國文（講讀作文文法）、漢文、英語、數學（代數算術）

第十六條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ宣誓名簿ニ記名シ入學金ヲ添ヘ左記書類ヲ差出スヘシ

一、履 歷 書

二、戶籍 謄本

三、（イ）第十二條第一號及第三號該當者ニ在リテハ卒業ニ關スル當該學校長ノ證明書

（ロ）第十二條第二號該當者ニ在リテハ合格證明證

（ハ）第十三條各號該當者ニ在リテハ免許狀授與ニ關スル當該地方長官ノ證明書

但シ第十二條第三號ニ該當スル者ニシテ師範學校卒業者ニ在リテハ前記ノ外地方長官ノ

入學承認書又ハ服務義務終了證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

四、甲乙保證人連署ノ在學證書

保證人ハ其ノ父兄（父兄ナキ者ハ親戚）ヲ甲保證人トシ本大學所在地又ハ其ノ附近ノ地ニ於テ

一家ヲ立ツル身元確實ナル成年ノ男子ヲ乙保證人トシ其ノ生徒在學中ニ於ケル一切ノ責ニ任ス

ヘキモノトス 但シ父兄ノ本大學ノ所在地又ハ其ノ附近ノ地ニ住居スル者ハ乙保證人ヲ要セス

第十七條 保證人轉居改氏名ノトキハ直ニ届出ツヘク死亡シタル場合ニハ更ニ他ノ保證人ヲ選定

シ届出ツヘシ

第十八條 生徒事故若クハ病氣ニ因リ缺席スルトキハ其ノ旨届出ツヘシ 但シ一週間以上ニ亘ル

トキハ保證人ノ連署ヲ要シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第十九條 病氣又ハ兵役ノ義務ニ因リ休學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出ツヘシ 但シ病氣

ニ因ル者ノ休學期間ハ一箇年ヲ越ユルコトヲ得ス

第二十條 一旦退學シタルトキハ退學二年以内ニ限り銓衡ノ上原學年以下ニ編入スルコトアルハ

シ

第五章 入學檢定料 入學金 授業料

第二十一條 入學檢定料及入學金ハ各金五圓トス

第二十二條 授業料ハ年額金百圓トシ毎學年四月二十五日迄ニ之ヲ納付スヘシ 但シ三期ニ分納セ
ントスル者ハ左表ニ依リ納付スヘシ

第一期 四月廿五日迄 金參拾五圓

第二期 九月二十日迄 金參拾五圓

第三期 一月十五日迄 金參拾圓

第二十三條 授業料ノ納付ヲ怠リタル者ハ之ヲ除籍ス

第二十四條 生徒事故若クハ病氣ノタメ缺席スルモ授業料ヲ減免セラルルコトナシ 但シ兵役ノ義
務ニ因ル休學期間ハ此ノ限ニアラス

第二十五條 既納ノ入學檢定料入學金及授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第六章 試験及成績判定

第二十六條 試験ヲ分チテ學期試験學年試験ノ二種トシ學期試験ハ第二學期中ニ於テ之ヲ行ヒ學年
試験ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第二十七條 試験成績ノ判定ハ百點ヲ以テ滿點トシ第一部ニ在リテハ道義國文漢文歴史教育第二部
ニ在リテハ道義國文漢文歴史教育ノ各科目六十點以上其ノ他ノ各科目五十點以上平均六十點以
上ヲ以テ合格トス

學年成績ハ學期試験及學年試験ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定メ卒業成績ハ各學年ノ成績ヲ通約シテ
之ヲ定ム

第二十八條 病氣又ハ特別ノ事故ニ因リ學年試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ願ニ依リ追試験ヲ許可
スルコトアルヘシ

第二十九條 引續キ二回學年試験ニ合格セサル者ハ之ヲ除籍ス

第七章 賞 罰

第三十條 生徒ニシテ品行端正學術優等ナル者ハ學年ノ終ニ於テ次學年ノ特待生ニ選定ス
 特待生ニ對シテハ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ
 第三十一條 正當ノ理由ナクシテ三箇月以上引續キ缺席シタル者出席常ナラサル者又ハ學業劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者ハ之ヲ除籍ス
 第三十二條 本規程ニ違反シ又ハ生徒ノ本分ニ背反スル行爲アリタル者ハ其ノ情狀ノ輕重ニ從ヒ戒飭停學或ハ退學ニ處ス

第八章 專 修 科

第三十三條 專修科ノ修業年限ハ一年トス
 第三十四條 專修科ノ學科ヲ分チテ第一部第二部トシ第一部ニ在リテハ道義國文漢文ヲ專攻セシメ第二部ニ在リテハ國文漢文歴史ヲ專攻セシム
 第三十五條 專修科第一部ノ學科目及每週授業時數左ノ如シ

每週授業時數	學 科 目	每週授業時數	學 科 目	每週授業時數	學 科 目
二	古事記又ハ日本書紀	二	西洋倫理學史	二	國 語 學
二	神 道 概 論	四	國 文 學	六	漢 文 學
二	國 民 道 德	二	國 文 學 史	二	漢 文 演 習
二	東洋倫理學史	二	國 文 演 習		

第三十六條 專修科第二部ノ學科目及每週授業時數左ノ如シ

每週授業時數	學 科 目	每週授業時數	學 科 目	每週授業時數	學 科 目
二	古事記又ハ日本書紀	四	國 文 學	六	漢 文 學
四	國 史	二	國 文 學 史	二	漢 文 演 習
二	東 洋 史	二	國 文 演 習		
二	西 洋 史	二	國 語 學		

第三十七條 專修科第一部若クハ第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國學院大學附屬高等師範部當該

部卒業者ニ限ル

第三十八條 専修科ニ入學セントスル者ハ四月三十日ヲ限り願出ツヘシ

第三十九條 國學院大學附屬高等師範部卒業者ニシテ直ニ専修科ニ入學スル者ハ第十六條ノ手續ヲ要セス

第四十條 専修科ノ授業料ハ年額金百圓トス 但シ第二十二條ノ規定ニ準シ之ヲ三期ニ分納スルコトヲ得

第四十一條 専修科ノ試験ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第四十二條 専修科ノ試験成績ノ判定ハ百點ヲ以テ滿點トシ各科目六十點以上ヲ以テ合格トス

第四十三條 病氣又ハ特別ノ事故ニ因リ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ願ニ依リ追試験ヲ許可スル事アルヘシ

第四十四條 専修科生ニ對シテハ本章所定ノ外一般規程ヲ適用ス

第九章 選科生 聽講生

第四十五條 相當ノ學歷ヲ有シ第六條第七條規定ノ學科目中數科目ヲ選ヒテ學修セントスル者アル

トキハ學力考查ノ上選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十六條 選科生ハ其ノ學修セントスル科目ヲ定メ學年ノ始ニ於テ願出ツヘシ

第四十七條 相當ノ學力ヲ有シ第六條第七條規定ノ學科目中一科目以上ヲ選ヒテ聽講セントスル者アルトキハ學年ノ始ニ於テ銓衡ノ上聽講生トシテ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十八條 選科生及聽講生ノ授業料ハ年額金百圓トス 但シ第二十二條ノ規定ニ準シ之ヲ三期ニ分納スルコトヲ得

第四十九條 聽講生ニ對シテハ試験ヲ行ハス

第五十條 選科生及聽講生ニ對シテハ本章所定ノ外一般規程ヲ適用ス

第十章 給費 貸費

第五十一條 生徒(専修科生及選科生聽講生ヲ除ク)ニシテ學術優等品行端正ナル者ニハ其ノ請願ニ依リ學費ヲ給與若クハ貸與スルコトアルヘシ
給費貸費ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

第五十二條 本學則ハ昭和五年四月一月以後入學ノ者ヨリ之ヲ適用ス 但シ昭和三年度以前ニ入學シ本規程施行ノ際現ニ在籍スル生徒ニシテ昭和四年度第二學年ニ於テ進級シ得サル者昭和五年度第三學年ニ於テ卒業シ得サル者ハ本規程ノ相當學年ニ編入スルモノトス 第八章專修科ニ關スル規定ハ之ヲ昭和八年四月一日ヨリ施行シ昭和五年度同六年度及同七年度ハ現行臨時專攻科規程ニ依ル 又昭和四年度以前ニ入學シ本規程施行ノ際現ニ在籍スル生徒(聽講生ヲ除ク)ノ授業料ニ關シテハ昭和七年度末迄舊規程ヲ適用ス

昭和十一年度學科配當

一 學 部

帝國憲法及皇室典範	古 事 記	日 本 書 紀	神 道 概 論	神 道 概 論	神 道 概 論	神 道 概 論	神 道 概 論	神 道 概 論	神 道 概 論	神 道 概 論	倫 理 學 概 論	日 本 倫 理 學 史	東 洋 倫 理 學 史 (日本漢文學史)
教授	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	講 師	教 授	同
西 川 一 男	植 木 直 一 郎	武 田 祐 吉	田 中 義 能	宮 地 直 一	山 本 信 哉	寬 本 信 哉	河 野 省 三	河 野 省 三	長 屋 喜 一	田 中 義 能	小 柳 司 氣 太	同	同

西洋倫理學史	講師	長屋	喜一
哲學概論	教授	松永	材
東洋哲學(老子)	同	小柳	司氣太
東洋哲學史	同	花山	信勝
西洋哲學史(上代—中世)	講師	波多野	通敏
同(近世)	同	伊藤	謹一郎
西洋哲學(論理學)	教授	松永	材
社會學(概論)	同	今井	時郎
宗教學(概論)	同	加藤	玄智
國史學(概說上代—平安)	同	植木	直一郎
同(奈良、平安)	同	和田	英松
同(鎌倉)	同	龍田	英松
同(概說鎌倉—江戸)	同	渡邊	世祐
同	同	井野邊	茂雄

日本法制史	同	植木	直一郎
東洋史學(東洋史概說近世)	同	松井	瑣次郎
同(東洋史概說上代—中世)	同	市村	瑣次郎
同(滿鮮史)	同	松井	瑣次郎
西洋史學(西洋史概說近世)	同	齋藤	清太郎
同(西洋史概說上代—中世)	同	內藤	智秀
同	同	齋藤	清太郎
古文書學	同	岩橋	小彌太
文學概論	講師	石幡	五郎
國文學史(上代—中世)	教授	折口	信夫
同(近世)	同	藤村	信夫
國語學(國語學史)	同	松尾	捨治郎
同(概論)	同	金田	京助
言語學(概論)	同	金田	京助

外國語學(獨逸語)
同 教
練 (佛蘭西語)

二大學豫科

第一學年

國民道德
國語講讀(枕草子)
同 (中世文學)
同 (大鏡)
國文法
作文
作歌
漢文講讀(論語)
同 (孟子)

講師

木村

岡村

謹治

將太郎

教授

河野

野野

三省

三

同

鳥野

野

幸次

三

同

西角

井野

正

慶

講師

今泉

藤井

忠謙

三

同

尾崎

久彌

春

洋

教授

安藤

藤井

圓

武

英語講讀 (十八史略)

同

藤野

岩

友

友

同

講師

尾崎

正

忠

男

同

同

山田

正

武

一

同

同

菊池

正

武

一

英文法

同

同

同

善

男

會話書取

同

山田

正

形

男

獨逸語

同

鶴田

眞

次

郎

東洋史

同

樋口

清

二

之

心理學

同

見尾

勝

馬

等

論理學

同

小野

祖

四

郎

法制經濟

同

江刺

喜

四

郎

國同獨英英同同英同同漢作作
 史同逸文作文語語文文文文文
 (文法)(講讀)取書法法讀讀讀讀讀
 (大學中庸)(左傳)(史記)

同同同同講教講同同教講教同講
 師師師師師師師師師師師師師師
 秋岩鶴太菊坂會尾新安藤安藤渾
 山本田田池井根崎田藤野藤井防
 謙經眞善武正忠美圓岩圓春小
 藏丸郎男一一保男男秀友秀洋平

國同同同國國民同同同同武教
 文法講讀(近松)國民道德道練
 (萬葉集)(現代文)(古今集)
 (同)(弓)(同)(柔)(同)(劍)

第二學年

教授同講師同教授講師同同同同講
 松藤渾武折小柳西花三鈴森配
 尾井防田口野原田桐船木屬
 捨春小祐信祖享砥清久勝正將
 治洋平吉夫教平潔郎藏治純校

東洋史 教授 松井 正慶
 西洋史 同 森田 鏡三郎
 哲學概論 同 松永 鏡三郎
 法制經濟 同 中村 至道
 自然科學 講師 雨宮 保衛
 教練 配屬 將校
 國民道德 教授 田中 義章
 倫理學 講師 藤井 義章
 國文講讀(平家物語) 教授 御巫 清勇
 同 堀江 秀雄
 祝詞講義 同 御巫 清勇
 習字 講師 羽田 清光

三 附屬神道部

第一學年

祝詞作法 教授 西角 正慶
 國文法 同 松尾 捨治郎
 作文作歌 講師 岩崎 春彦
 漢文講讀(論語) 教授 新田 美喜男
 同 (孟子) 講師 藤野 岩友
 國史 教授 植木 直一郎
 神祇史 講師 岸本 芳雄
 東洋史 教授 松田 壽男
 西洋史 同 森田 鏡三郎
 心理學 講師 見尾 勝馬
 論理學 同 小野 祖教
 憲法及皇室典範法學通論 教授 澤田 五郎
 神社概說 講師 矢尾 五郎
 神社祭式 同 大塚 承一

同文講義 (枕草子)
 祝詞講義
 祝詞作文
 國文學史
 國文法
 作文
 作歌
 漢文講讀 (書經)
 同 (老子)
 國史
 神祇史
 日本書紀
 東洋史
 西洋史

同 堀江 秀雄
 同 御巫 清勇
 同 西角 正慶
 同 今泉 忠義
 同 尾崎 久彌
 講師 西角 正慶
 教授 新田 美喜
 同 藤野 岩友
 同 祝野 宮靜
 同 岸本 芳雄
 教授 武田 祐吉
 同 松田 壽男
 同 森田 鏡三郎

國民禮法
 英語講讀
 英作文法
 教練
 武道 (劍)
 同 (同)
 同 (柔)
 同 (同)
 同 (弓)
 同 (同)
 神道要論
 神道書國民道德書解題
 國文講讀 (萬葉集)

講師 大山 承一
 同 山田 正形
 教授 坂井 正一
 配屬 森屬 將校
 講師 鈴木 正純
 同 鈴木 勝治
 同 三船 久藏
 同 花桐 清二郎
 同 西田 砥潔
 同 柳原 亨平
 教授 佐伯 有義
 同 河野 省三
 同 西角 正慶

同 及 漢 國 國 史 考 東 西 地 教 教 社
 身 文 文 史 古 洋 理 本 會
 演 講 史 古 洋 學 學 學
 習 讀 史 學 史 學 法 學 學
 (宣命) (易經禮記)

同 講 教 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 師 授 師 師 師 師 師 師 師 師 師 師 師
 武 尾 鳥 飯 井 宮 內 大 松 內 秋 入 飯 今
 田 崎 野 島 島 邊 野 地 場 井 藤 岡 澤 田 井
 祐 久 幸 忠 茂 直 智 智 磐 智 武 宗 晁 時
 吉 彌 次 夫 雄 一 雄 秀 雄 秀 郎 壽 三 郎

哲 皇 祭 神 神 雅 同 同 英 英 教 國 國
 學 室 祀 社 社 雅 同 同 語 語 文 道 國
 概 制 令 法 法 樂 同 同 講 講 作 文 民 文
 論 度 令 令 式 樂 同 同 讀 讀 法 德 講
 第三學年
 (源氏物語)

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 授 師 師 師 師 師 師 師 師 師 師 師 師
 松 植 佐 中 大 豐 多 多 近 山 配 折 河 同
 永 木 伯 島 塚 田 藤 屬 野 口 野 信
 材 郎 義 清 承 時 久 忠 宗 正 將 省 夫
 直 有 一 二 一 元 保 男 形 校 三 三
 一〇八

宗 教 學	教 授	加 藤 玄 智
日 本 法 制 史	同	植 木 直 一 郎
神 社 制 度	講 師	齋 藤 常 之
神 社 祭 式	同	大 塚 承 一
雅 樂	同	豐 時 義 一
同	同	多 久 元
同	同	多 忠 保
英 語 講 讀	教 授	坂 井 正 一
英 作 文、文 法	講 師	近 藤 宗 男
教 練	同	配 屬 將 校

四 附 屬 高 等 師 範 部

第 一 學 年

(第 一 部、第 二 部 共 通 科 目)

國 民 道 德	教 授	河 野 省 三
---------	-----	---------

國 文 講 讀 (古 今 集)	同	金 子 元 臣
同 (大 鏡)	講 師	今 井 通 郎
同 (現 代 文)	同	渾 大 防 小 平
國 文 學 書 解 題	教 授	堀 江 秀 雄
國 文 法	同	今 泉 忠 義
修 辭 學	同	堀 江 秀 雄
作 文	講 師	石 川 富 士 雄
作 歌	同	藤 井 春 洋
漢 文 講 讀 (論 語)	教 授	新 田 美 喜 男
同 (孟 子)	講 師	藤 野 岩 友
同 (十 八 史 略)	教 授	新 田 美 喜 男
同 (八 家 文)	同	同 同
同 (唐 詩 選)	同	同 同
漢 文 法、漢 作 文	講 師	澤 田 總 清

國史	太古—平安	講師	祝	宮	靜
同	(鎌倉—室町)	同	秋山	謙藏	
教育學		教授	飯田	晁三	
心理學		講師	見尾	勝馬	
論理學		同	小野	祖教	
英語		同	菊池	武一	
英作文、文法		同	山田	正形	
武道	(劍)	同	森田	正純	
同	(同)	同	鈴木	勝治	
同	(柔)	同	三船	久藏	
同	(同)	同	花桐	清二郎	
同	(弓)	同	西牟	砥潔	
同	(同)	同	柳原	亨平	
英文練習	(古今)	同	配屬	將校	

倫理學	(第一部專修科目)	講師	藤谷	五章
東洋史	(第二部專修科目)	教授	松田	壽一男
西洋史		同	森田	鍊三郎
第二學年				
(第一部、第二部共通科目)				
神道概論	(古語)	教授	田中	義吉
國文講讀	(古事記)	同	武田	祐吉
同	(枕草子)	同	金子	元吉
同	(平家物語)	同	鳥野	幸次
同	(謡曲俳文)	同	堀江	秀三雄
國文法		同	高橋	龍雄
國文學史		同	西角	正慶

哲學概論	教育史	有職故實	國史	漢文法	漢文	支那文學史	同	同	同	同	漢文講讀	作文	作文
(第一時專修科目)	(第二時專修科目)					(第一時專修科目)	(第二時專修科目)	(古詩源)	(史記)	(韓非子、荀子)	(左傳)	(大學、中庸)	
同	教授	講師	教授	同	講師	同	教授	講師	教授	同	同	講師	教授
松永	長谷川	河	植木	同	澤田	安藤	新田	川又	新田	川又	熊坂	高崎	今泉
	乙實	實	直一		總	圓	美喜	美喜		圭	正	忠	
材	彦	英	郎		清	秀	男	武	男	武	三	秀	義

法學通論	英語講讀	同	英作文、英文法	教練	日本倫理學史	佛教概說	自然科學	東洋史	西洋史	地理學概論
(第一時專修科目)	(第二時專修科目)							(日本書紀)	(古史)	
同	講師	教授	講師	教授	教授	同	講師	教授	同	講師
江刺	山田	坂井	菊池	配屬	田中	花山	雨宮	松井	森田	岡山
喜四郎	正一	正一	武一	將校	義能	信勝	保衛		鏡三郎	俊雄

第三學年

(第一部、第二部共通科目)

東洋倫理學史	教授	小柳	司氣太
國文講讀(萬葉集)	同	武田	祐三吉
同(日本書紀)	同	堀江	秀雄
同(伊勢、竹取、土佐)	同	同	同
言語學	同	同	同
國文法	同	金田	京助
國文學史	同	高橋	龍雄
作文	同	鳥野	幸次
作歌	同	尾崎	久彌
漢文講讀(書經)	講師	鳥野	幸次
同(詩經)	教授	熊坂	圭三
支那文學史	同	新田	美喜男
支那文字學	同	安藤	圓秀

漢籍解題	同	諸橋	轍次
漢作文(史升文)	同	新田	美喜男
作詩(新國文會)	同	同	同
日本文化史(高葉集)	講師	秋山	謙藏
教授法(高葉集)	教授	長谷川	乙彦
宗教學	同	花山	信勝
經濟學(第一講、第二講共通科目)	同	中山	至道
英語講讀(第一講、第二講)	同	山田	正形
英作文法	同	近藤	宗大男
教練	同	配屬	將次校
祭式(科外)	講師	大塚	承一

國民道德史(第一、二部專修科目)	教授	河野	省三
神社概說	講師	大場	磐雄

美學 (第二部專修科目) 講師 石幡五郎

史籍解題 教授 植木直一郎

東洋史 同 松井清太郎

西洋史 同 齋藤太郎

地理學概論 講師 秋岡武次郎

第四學年

(第一部、第二部共通科目)

思想問題概說 講師 高瀬兼介

國文講讀(源氏物語) 教授 折口信夫

同 (萬葉集) 同 武田祐吉

同 (祝詞宣命) 同 御巫清勇

國文演習(現代文) 同 堀江秀雄

同 (國文法) 同 松尾捨治郎

同 (國語學史) 講師 高崎正秀

文學概論 教授 松尾捨治郎

作文 同 折口信夫

作歌 同 小柳信太

漢文講讀(易經) 同 安藤圓秀

同 (禮記) 同 飯島忠夫

同 (老子、莊子) 同 宮越健太郎

支那時文 講師 澤田總清

漢文演習 同 諸橋徹次

漢籍解題 教授 新田美喜男

漢作文作詩 同 松田壽男

東洋文化史(一部) 同 松井清太郎

同 (二部) 同 藤井清太郎

西洋文化史 同 齋藤清太郎

教授法、教育法令
 社會學
 帝國憲法、皇室典範
 英語
 教練
 祭祀式(科外)
 (第一部專修科目)
 西洋倫理學史
 現代教育思潮
 (第二部專修科目)
 現代史
 史學研究法
 考古學

講師	教授	講師	教授	講師	同	講師	教授	講師
石澤	今井	大藤	近藤	配屬	大塚	藤井	入澤	森谷
真義	時郎	兎代夫	宗男	將校	承一	宗壽	宗章	秀亮
清	智秀	清	智秀	清	智秀	清	智秀	清

皇典講究所國學院大學

總裁 載仁親王殿下

顧問

伯爵 清浦奎吾
 伯爵 德川達孝
 伯爵 水野鍊太郎
 芝區白金猿町六一
 電高輪一八〇

法學博士 男爵 一木喜徳郎
 文學博士 上田萬年
 文學博士 服部宇之吉
 芝區大塚九二一
 電大塚九二一

文學博士 内藤久寛
 麻布區材木町三六
 電青山六五六五

贊 襄

文學博士 市村 瓚次郎
 澁橋區諏訪町八〇
 公 爵 德 川 園 順
 澁谷區猿樂町三四
 同電青山 六五九〇三
 有 馬 良 橋
 澁谷區大山町一八
 電青山一六〇七
 池 田 清
 北海道廳長官之舍
 潮 惠 之 助
 在 原 區 中 延 町 一 一 二 五
 電 在 原 四 一 〇 〇
 佐 上 信 一
 澁橋區西大久保二ノ二九四
 電 四 谷 五 八 二 〇
 伯 爵 三 條 西 實 義
 宇治山田市中之切町

理 事

男 爵 菊 池 武 夫
 澁橋區百人町二ノ一八二
 電 四 谷 五 一 五 三
 侯 爵 佐 佐 木 行 忠
 赤坂區青山南町六ノ一〇八
 電 青 山 七 七 〇 〇 五
 河 野 省 三
 世田谷區下馬町二ノ一〇六三
 電 世 田 谷 二 二 八 五
 鳥 野 幸 次
 目黒區上目黒六ノ一四四〇
 三 上 參 次
 本郷區駒込林町一六九
 電 小 石 川 四 六 〇 〇
 今 泉 定 助
 小石川區鷺籠町二三七
 電 大 塚 一 〇 三 七
 宮 西 惟 助
 本郷區駒込林町四〇
 電 小 石 川 七 六 三 六

監 事

男 爵 松 尾 捨 治 郎
 川崎市京町一ノ二二三
 電 川 崎 二 一 二 四
 千 秋 季 隆
 澁谷區原宿町二ノ一七〇ノ一三
 電 青 山 一 四 〇 一
 門 野 重 九 郎
 赤坂區新坂町五一
 電 赤 坂 三 九 四 〇
 河 野 秀 男
 豐島區高田雜司ヶ谷旭出六三
 電 大 塚 三 七 三 八
 明 石 照 男
 小石川區若荷谷町六六
 電 大 塚 五 六 七 〇
 葦 津 耕 次 郎
 澁谷區金王町三六
 石 川 岩 吉
 芝區高輪御料地

協 議 員

一三三

一三二

田 澤 義 鋪
 澁橋區百人町三ノ八二五
 電 四 谷 三 四 五
 館 哲 二
 品川區上大崎長者丸二七〇
 電 高 輪 五 〇 五 八
 塚 本 清 治
 澁橋區戸塚町三ノ三八二
 電 牛 込 四 四 六
 中 川 望
 豐島區目白町四ノ四三
 電 大 塚 二 四 五 三
 松 本 學
 在 原 區 中 延 町 一 〇 七 一
 電 在 原 三 一 七 四
 吉 田 茂
 豐島區目白町二ノ一六〇〇
 電 牛 込 二 〇 三 四
 渡 邊 勝 三 郎
 澁橋區下落合一ノ五五二
 電 大 塚 三 四 六 八

文學博士
今泉 定助
小石川區鴛籠町二三七
菟田 茂丸
宇治山田市神宮司廳
文學博士
植木 直一郎
赤坂區青山北町六ノ五〇
江見 清風
奈良市春日神社
大和田 貞策
滋賀縣犬上郡多賀村
河野 省三
世田谷區下馬町二ノ一〇六三
文學博士
賀茂 百樹
麴町區富士見町靖國神社々宅
神崎 一作
澁谷區千駄ヶ谷町六五五
菊池 武文
神戸市長田神社

一二四
桑原 芳樹
中野區打越町一〇
琴 陵光熙
香川縣琴平町金刀比羅宮
小林 林之助
大阪市西區北堀江上通四ノ六
佐伯 有義
澁橋區西大久保三七三
鈴木 松太郎
大阪市住吉區住吉町
千家 尊統
島根縣大社町出雲大社
副 島知一
奈良縣畷傍町極原神宮
田中 俊清
京都府八幡町石清水八幡宮
高松 四郎
札幌市札幌神社

高山 昇
京都市伏見區深草町稻荷神社
富岡 宣永
深川區深川公園内
鳥野 幸次
目黒區上目黒六ノ一四四〇
額賀 大直
京都市東山區祇園町八坂神社
長谷 外余男
名古屋市熱田神宮
堀江 秀雄
杉並區高圓寺三ノ二二九
松尾 捨治郎
川崎市京町一ノ二二三
文學博士
三上 參次
本郷區駒込林町一六九
宮西 惟助
本郷區駒込林町四〇

山田 新一郎
京都府上賀茂村賀茂別雷神社
文學博士
山本 信哉
澁橋區澁橋七二五
吉井 良晃
兵庫縣西宮市

皇典講究所
國學院大學 職員

所長 侯爵 佐佐木 行忠
 赤坂區青山南町六ノ一〇〇八
 電青山七七〇五
 學長 文學博士 河野 省三
 世田谷區下馬町二ノ一〇六三
 電世田谷二二八五
 專務理事 事務取扱 鳥野 幸次
 目黒區上目黒六ノ一四四〇
 本郷區駒込林町四〇
 電小石川七六三六
 當番理事 宮西 惟助
 學監 大學豫科 松井 等
 文學士 牛込區矢來町六九
 電牛込二一一三
 附屬神道部 植木 直一郎
 文學博士 赤坂區青山北町六ノ五〇

附屬高等師範部

堀江 秀雄
 杉並區高圓寺町三ノ二二九
 神職養成部 (兼) 文學博士 植木 直一郎
 赤坂區青山北町六ノ五〇
 皇典講究所主事 庶務課長 河合 繁樹
 杉並區松庵北町一一九
 會計課長 二宮 正彰
 澁谷區幡ヶ谷本町一ノ一〇
 國學院大學主事 教務課長 山根 緝一郎
 豐島區池袋二ノ一二三八
 學生課長 惠良 雄吉
 杉並區天沼二ノ四〇四
 學生監 山根 緝一郎

學生課長 惠良 雄吉
 杉並區天沼二ノ四〇四
 西村 芳雄
 目黒區自由丘二二三
 守谷 武文
 澁谷區大和田町六二
 (兼) 中野 佐柿
 (養成部專任) 目黒區三谷町五一
 附屬圖書館長 事務取扱 進藤 讓
 牛込區余丁町一〇九
 職員分課 秘書 (兼) 大野 政虎
 小石川區原町一三三
 電大塚五三四七
 庶務課

課長 河合 繁樹
 杉並區松庵北町一一九
 (兼) 大野 政虎
 小石川區原町一三三
 電大塚五三四七
 森田 四郎
 品川區東大崎三ノ二〇三
 鈴木 貞治
 目黒區上目黒五ノ二五九四
 長島 精治
 本郷區湯島新花町三九池田方
 生川 喜美枝
 深川區永代二丁目
 二〇ノ四 荒岡方
 田村 幸吉
 澁谷區田每町七澁谷アパート
 教務課 課長 山根 緝一郎
 豐島區池袋二ノ一二三八
 一二七

學生課
 課長 惠良雄吉
 西村芳雄
 杉並區天沼二ノ四〇四
 目黒區自由丘二二三

守谷武文
 澁谷區大和田町六二
 小川沖之介
 目黒區洗足二二七四
 鈴木茂枝
 世田谷區松原町三ノ一一〇二
 岩下宜令
 品川區南品川五ノ二八九
 黒柳輝夫
 蒲田區新宿町四四九
 山名隆
 目黒區平町二六八馬場方

擴張課
 囑託
 守谷武文
 澁谷區大和田町六二
 中野佐柿
 目黒區三谷町五一
 安藤圓秀
 世田谷區世田谷二ノ二三三九
 電世田谷二五二一
 山本吉之助
 世田谷區下馬二ノ一〇八六
 石原武夫
 杉並區阿佐ヶ谷五ノ八四
 高辻義胤
 中野區鷺ノ宮一ノ九一
 中村崧雄
 目黒區上目黒八ノ三四八森本館
 伊木豐洪
 目黒區中根町一八九二

會計課
 課長 二宮正彰
 澁谷區幡ヶ谷本町一ノ一〇
 津金不二雄
 横濱市中區天神町二ノ四五
 草場峻
 杉並區和田本町八七三
 坂井登
 王子區赤羽町三ノ一一四八
 和田隆白
 瀧ノ川區西ヶ原一〇九七
 鈴木隼歌子
 澁谷區神宮通二ノ一〇

附屬圖書館
 館長 事務取扱
 高橋君子
 本所區綠町一ノ七
 進藤讓
 牛込區余丁町一〇九
 宮崎秋一
 本郷區新花町一〇〇
 久保田正孝
 澁谷區永住町三〇
 澁谷繁
 目黒區上目黒五ノ二五六八
 安田勝武
 澁谷區常磐松町六二
 菊池武經
 中野區東郷三一
 進藤讓
 牛込區余丁町一〇九
 一二九

國學院大學商議員(○印)

- 石川 岩吉
芝區高輪御料地
電高輪六八〇〇
- 文學博士 市村 瓚次郎
澁橋區諏訪町八〇
- 文學博士 植木 直一郎
赤坂區青山北町六ノ五〇
- 文學博士 河野 省三
世田谷區下馬町二ノ一〇六三
電世田谷二二八五
- 法學博士 寬 克彦
牛込區北町七
電牛込一八
- 文學博士 金澤 庄三郎
本郷區曙町二五
電大塚六一一五

- 神崎 一作
澁谷區千駄ヶ谷六五五
電四谷九一〇
- 文學博士 小柳 司氣太
豐島區雜司ヶ谷七ノ九七四
電牛込四六四四
- 侯爵 佐佐木 行忠
赤坂區青山南町六ノ一〇〇八
電青山七七〇五
- 男爵 千 秋季隆
澁谷區原宿町二ノ一七〇ノ一三
電青山一四〇一
- 文學博士 武田 祐吉
世田谷區松原二ノ六六三
- 塚本 清治
澁橋區戸塚町三ノ三八二
電牛込四六
- 鳥野 幸次
目黒區上目黒六ノ一四四〇

一三〇

- 文學博士 服部 字之吉
澁橋區諏訪町一八二
電牛込二三六〇
- 松浦 鎮次郎
小石川區名荷谷町四九
電大塚三七〇〇
- 文學博士 三上 參次
本郷區駒込林町一六九
電小石川四六〇〇
- 宮西 惟助
本郷區駒込林町四〇
電小石川七六三六
- 文學博士 山本 信哉
澁橋區澁橋七二五
- 文學博士 渡邊 世祐
小石川區林町九四
電大塚六〇〇二
- 文學博士 折口 信夫
品川區大井出石町五〇五二

- 教員 (休講ヲ除ク)
- 頭書擔任部別中一學ハ學部、豫ハ豫科、師ハ高等師範部、神ハ神道部、養ハ神職養成部ヲ示ス
- 擔任部別
- 豫師 文學士 秋山 謙藏
澁橋區東大久保二ノ一
 - 師神 理學士 秋岡 武次郎
世田谷區北澤町二ノ一二三
 - 養 文學士 天野 義郎
目黒區富士見臺一五六八
 - 豫師 醫學博士 雨宮 保衛
澁谷區鷺谷町二七
電青山三七一八

一三一

豫師 (師三、四學年主任) 文學士 安藤圓秀
 世田谷區世田谷二ノ二二三九
 電世田谷二五二一
 師 石川富士雄
 世田谷區松原町一ノ八九
 師 石澤貞義
 府下武藏野吉祥寺一九三八
 學師 文學士 石幡五郎
 世田谷區北澤五ノ八四〇
 學 文學博士 市村瓊次郎
 澁橋區諏訪町八〇
 養 稻垣儀一
 目黒區上目黒五ノ二五三二
 神 岩崎春彦
 埼玉縣蕨町御殿四九七八
 學 岩橋小彌太
 豐島區西巢鴨二ノ二三九三
 豫 岩本經丸
 杉並區松ノ木町一四四五

師 文學博士 飯島忠夫
 小石川區高田豊川町三七
 電牛込六八二〇七
 師 文學士 飯田晁三
 千葉縣市川市大門向五九九
 學 文學士 伊藤謹一郎
 杉並區上荻窪一ノ二九
 豫師神 今泉忠義
 目黒區中根町一九七〇
 師 文學士 今井通郎
 板橋區中新井町四ノ
 一二五四(西武莊)
 學師神 文學士 今井時郎
 板橋區中新井町四ノ
 一二五四(西武莊)
 學師神 文學博士 入澤宗壽
 瀧野川區田端町西臺六三〇
 電小石川八〇一五
 學師神養 文學博士 植木直一郎
 赤坂區青山北町六ノ五〇

豫師 文學士 江刺喜四郎
 赤坂區新町三ノ四二
 電赤坂二五八二
 師 法學士 大串兎代夫
 澁谷區幡ヶ谷原町八七七
 豫 文學士 太田善男
 目黒區中目黒四ノ一二四七
 學師神養 大塚承一
 杉並區東田町一ノ一二二
 師神 大場磐雄
 府下武藏野吉祥寺一七六ノ三
 電吉祥寺四四五
 神養 多忠保
 中野區千代田町三七ノ四
 多 久元
 杉並區阿佐ヶ谷町一ノ八四二
 學豫師神 文學博士 河野省三
 世田谷區下馬町二ノ一〇六三
 電世田谷二二八五

學師 文學士 子爵 河緒實英
 赤坂區青山南町六ノ一〇八
 電青山二七九〇
 豫師 川又武
 澁橋區百人町二ノ八九
 學 法學博士 笥克彦
 牛込區北町七
 電牛込一八
 學神 文學博士 加藤玄智
 小石川區丸山町一
 電大塚二七〇
 學師 金子元臣
 小石川區白山御殿町一〇七
 電小石川六五二六
 養 金田菊三郎
 小石川區白山御殿町一〇七
 學 文學士 上條辰藏
 本郷區駒込曙町一六
 神養 文學士 岸本芳雄
 目黒區中根町一七六九

學 文學博士 木村 謹治
 世田谷區上北澤一ノ二六四
 學師 文學博士 金田 一京助
 杉並區東田町一ノ一一五
 豫師 文學士 菊池 武一
 豐島區長崎南町一ノ一八七一
 師 熊坂 圭三
 小石川區小日向臺町二ノ二六
 學 熊本 謙二郎
 豐島區目白町四ノ四三
 學 法學博士 幸田 成友
 杉並區上荻窪町四四〇
 學師 文學博士 小柳 司氣太
 豐島區雜司ヶ谷七ノ九四七
 電車込四六四五
 豫師 (豫二學年主任) 渾大 防小平
 品川區西品川四ノ一二五四
 師神 文學士 近藤 宗男
 淀橋區戸塚町一ノ四九三

學師 文學士 齋藤 清太郎
 神奈川縣藤澤町鶴沼字川袋二四四七
 電藤澤四六四
 神 工學士 齋藤 常之
 豐島區高田本町二ノ二四八七
 學 文學士 笹岡 太郎
 世田谷區北澤町五ノ八一六
 豫師神 文學士 坂井 正一
 蒲田區新宿町三六一
 豫 文學士 佐藤 謙三
 橫濱市中區西久保町一一〇
 神養 法學士 澤田 五郎
 麻布區筈町一三九
 師 澤田 總清
 麴町區下六番町一七
 電九段三八〇八
 學神養 佐伯 有義
 淀橋區西大久保三七三
 電四谷三五一五

豫師神養 鈴木 勝治
 世田谷區松原町二ノ五一〇
 養 千家 尊宣
 麻布區霞町一
 電赤坂三三四四
 豫 文學士 曾根 保
 世田谷區砧町喜多見成城南四八
 師 高瀬 兼介
 平塚市諏訪町一四四八
 師 文學士 高崎 正秀
 目黒區上目黒五ノ二五三一
 師 高橋 龍雄
 淀橋區西大久保町一ノ三六五
 學 高柳 光壽
 小石川區丸山町一九
 學豫師神 文學博士 武田 祐吉
 世田谷區松原二ノ六六三
 學師神 文學博士 田中 義能
 小石川區白山御殿町一三〇

學 理學士 田邊 尚雄
 淀橋區下落合町一ノ五四六
 電落合長崎二八八三
 學 文學博士 辻 善之助
 淀橋區戸塚町四ノ七八三
 電車込一五七八
 豫 文學士 鶴田 眞次郎
 淀橋區下落合町二ノ七九八
 學豫師神 鳥野 幸次
 目黒區上目黒六ノ一四四〇
 學師神 文學博士 内藤 智秀
 小石川區原町一二六
 電大塚五七八八
 神 法學士 中島 清二
 澁谷區代々木富ヶ谷一四九四
 電四谷三〇五二
 養 中島 正國
 神奈川縣鎌倉町雪ノ下
 電鎌倉七二二
 養 中野 佐柿
 目黒區三谷町五一

豫師 法學士 中村 至 道
 大森區雪ヶ谷町一〇三七
 養 文學士 長倉 三郎
 目黒區綠ヶ丘二四〇〇桑原方
 學 文學士 長屋 喜一
 澁橋區上落合町二ノ七八五
 學 法學士 西川 一 男
 澁橋區西大久保二ノ三〇〇〇
 電四谷一三〇〇〇
 豫師神養 (神一三三) 西角 井 正 慶
 學年主任
 埼玉縣大宮町高鼻一
 豫師神 (弓道) 教士 西 牟 田 砥 潔
 中野區神明町一三
 豫師 新田 美 喜 男
 豐島區巢鴨町三ノ二
 學 文學士 萩原 芳 之 助
 小石川區大塚坂下町七二

一三六
 學師 長谷川 乙 彦
 世田谷區北澤二ノ九六
 學 文學士 波多 野 通 敬
 小石川區竹早町八二
 神 羽田 清 光
 目黒區鷹番町一三九
 豫師神 (柔道) 教士 花 桐 清 二 郎
 大森區市ノ倉町八六
 學師 文學士 花 山 信 勝
 澁橋區西大久保三ノ一九
 師神養 文學士 祝 宮 靜
 杉並區馬橋二ノ二四三
 電中野五二八五
 養 文學士 春 田 健 一
 本所區向島一ノ七
 電墨田九七四
 豫師 文學士 樋口 清 之
 世田谷區松原町一五一

學 文學博士 藤 懸 靜 也
 澁橋區柏木四ノ九一六
 電四谷七五四〇
 豫師神 (豫一學年) 藤 野 岩 友
 主任
 澁橋區柏木町三ノ四〇六
 學 文學博士 藤 村 作
 澁谷區幡ヶ谷本町一ノ二七
 電四谷六七〇五
 師神 文學士 藤 井 章
 杉並區阿佐ヶ谷六ノ一七三
 豫師 文學士 藤 井 春 洋
 品川區大井出石町
 五〇五二 折口方
 神養 豐 時 義
 牛込區市ヶ谷富久町一〇一
 師神養 堀 江 秀 雄
 杉並區高圓寺三ノ二二九
 師神 文學士 松 田 壽 男
 品川區上大崎町長者九二九八
 電高輪一三八四

學豫師神 文學士 松 永 材
 杉並區荻窪二ノ一〇〇
 電荻窪三五七二
 學豫師神 文學士 松 井 等
 牛込區矢來町六九
 電牛込二一三三
 學豫師神 松 尾 捨 治 郎
 川崎市京町一ノ二三三
 電川崎二一四
 師神養 文學士 御 巫 清 勇
 瀧野川區田端町五〇一
 豫師神 (柔道) 範士 三 船 久 藏
 四谷區永住町二
 電四谷四六二九
 師 宮 越 健 太 郎
 小石川區林町六四
 學神 文學博士 宮 地 直 一
 澁谷區代々木山谷町一七五ノ一
 電四谷三四四五
 學 宮 西 惟 助
 本郷區駒込林町四〇
 電小石川七六三六

豫師神 文學士 見 尾 勝 馬
 板橋區練馬向山町六
 豫師神 (劍道) 教士 森 正 純
 澁谷區下落合町一ノ三四一
 養 森 下 亮 一
 杉並區東田町二ノ一三八
 豫師神 文學士 森 田 鏡 三 郎
 瀧野川區田端町六五三
 電小石川二八六
 師 文學士 森 谷 秀 亮
 杉並區荻窪二ノ一二〇
 學師 文學博士 諸 橋 轍 次
 澁谷區西落合町一ノ二四
 電落合長崎三一六一
 豫師神 柳 原 亨 平
 中野區昭通三ノ二九
 豫師神 山 田 正 形
 澁谷區代々木富ヶ谷町一四六七
 學 文學博士 山 本 信 哉
 澁谷區澁橋七二五

神養 矢 尾 板 敦
 澁谷區代々木初臺町五七三
 學 文學士 龍 肅
 杉並區阿佐ヶ谷六ノ二二三
 學 文學博士 和 田 英 松
 澁谷區千駄ヶ谷三ノ五三八
 電青山七一八七
 學 文學博士 渡 邊 世 祐
 小石川區林町九四
 電大塚六〇〇二
 養 井 熊 誠 一
 世田谷區太子堂四五八
 學神 文學博士 井 野 邊 茂 雄
 本郷區駒込淺嘉町七八
 師 理學士 岡 山 俊 雄
 牛込區新小川町同潤會アパート一號館五四四
 學 文學士 荻 野 仲 三 郎
 杉並區阿佐ヶ谷五ノ四二
 豫師神 尾 崎 久 彌
 神田區錦町二ノ三服部英雄方

學豫 文學士 尾 崎 忠 男
 小石川區第六天町三二
 豫師神 (師一、二) 小 野 祖 教
 文學主任
 文學士 世田谷區玉川等々力町三ノ二五五
 學豫師神 文學博士 折 口 信 夫
 品川區大井出石町五〇五二
 校 醫 小 川 德 與
 澁谷區水川町二七
 電青山六五五〇
 配屬將校 陸軍歩兵大佐 水 原 義 重
 杉並區阿佐ヶ谷町六ノ一二四
 陸軍歩兵中佐 手 代 木 滿 雄
 目黒區自由丘二四九
 研究室

道義研究室 第一分科主任 河 野 省 三
 文學博士 世田谷區下馬町二ノ一〇六三
 電世田谷二二八五
 第二分科主任 松 永 材
 文學士 杉並區荻窪二ノ一〇〇
 電荻窪三五七二
 文助 學士 安 津 素 彦
 下谷區西町二
 電下谷七〇一六
 國史研究室 第一分科主任 植 木 直 一 郎
 文學博士 赤坂區青山北町六ノ五〇
 第二分科主任 松 井 等
 文學士 牛込區矢來町六九
 電牛込二一三
 文助 學士 柴 田 公 徳
 世田谷區北澤町二ノ一九二磯部方

國文研究室

等一分科主任 文學博士 金田一 京助
第二分科主任 文學博士 折口 信夫
文學士 品川區大井出石町五〇五二
三谷 榮一 蒲田區新宿町六五

人事委員會

委員長 松尾捨治郎
主査 堀江 秀雄
委員 鳥野 幸次
目黒區上目黒六ノ一四四〇

同文學博士

植木直一郎 赤坂區青山北町六ノ五〇
惠良雄吉 杉並區天沼二ノ四〇四
山根緝一郎 豐島區池袋二ノ二二三八
河合繁樹 杉並區松庵北町一九一
二宮正彰 澁谷區幡ヶ谷本町一ノ一〇
守谷武文 澁谷區大和田町六二
書記(兼) 高辻 義胤 中野區鷺ノ宮一ノ九一
同(兼) 伊木 豊洪 目黒區中根町一八九二

學生生徒

姓名	出身學校	昭和十年度	昭和九年度	昭和八年度
入澤 孝	國文學科	鳥取	都甲 博	宇佐中 大分
鶴殿 正元	國文學科	東京	森 茂樹	岡山一中 岡山
小寺 謙二	國史學科	千葉	米津守三郎	大倉商業 大阪
小仲井文彦	國史學科	福岡	昭和十年度	
鳥越 清一	國史學科	福岡	大谷 長良	函館中 北海道
土井 信良	國文學科	東京	草野 正名	中津中 大分
松本 秀磨	國史學科	福島	高橋 忠	大社中 島根
三木 文雄	國史學科	德島	橋爪 春海	竹田中 大分
森 政恒	國史學科	廣島	廣田利七郎	高田中 東京
學部 道義學科			昭和十一年度	
池田 武典	國史學科	熊本	高鍋 哲夫	三池中 福岡
立花 米雄	國史學科	福岡	昭和八年度	
福岡中				

研究科

青山 重之 國史學科
安津 素彦 道義學科
江川 源彌 國文學科
篠原 竹雄 同
鈴木 脩一 同
西田 長男 道義學科
平山 輝男 國文學科
岡村忠次郎 國史學科
山田 新三 同

原籍 埼玉 東京 同 德島 靜岡 三重 宮崎 栃木 和歌山

佐藤彌三郎	高松中	香川	金光 眞整	岡山	平田日出男	都城	宮崎
下條 正彦	諏訪中	長野	清田 之長	熊本	丸山 義郎	松本中	長野
二宮 武雄	吳二中	廣島	清水 仙吉	茨城	宮崎 紘	府立二中	東京
昭和九年度			下村 正信	奈良	三善 克正	東京高師	東京
石田 秀一	開成中	山口	鈴木寅次郎	靜岡	渡邊 義彦	一宮中	愛知
石井 光	三神戶中	兵庫	高階 成章	靜岡	昭和一十年度		
宇都宮 敢	大垣中	岐阜	武川 憲一	兵庫	櫻本 憲世	中濟大覺	熊本
圓城寺大麓	小都中	佐賀	田代 成人	東京	稻生典太郎	本大學中	熊本
大内 享	八女中	福岡	玉川 公也	福岡	飯降 俊彦	天理中	熊本
加藤 清香	府立六中	東京	鳥居 重慶	長野	大成 功	浦和中	熊本
金子 新	上田中	長野	鳥居 雅雄	京都	角井 正敏	斐太中	熊本
河田 友英	市立東京	東京	土井 道人	東京	加城 敬三	關學院中	熊本
川西 善人	世羅中	廣島	内藤 由之	廣島	龜山彦一郎	小松中	熊本
河野 國雄	不動岡中	埼玉	中野 三郎	熊本	清原 正隆	成城中	熊本
神崎 四郎	巢鴨中	神奈川	中村 享	秋田	草山 躬行	小田原中	熊本
北村 進	清洲公立 高等普通	北海道	橋口 利長	島根	小岩 庄一	旭川中	熊本
木野戸勝逸	彦根中	滋賀	花本 德雄	長野	小久保大炊	豐橋二中	熊本
草薙 武吉	丸龜中	香川	久山 淑一	長野	小林 虎雄	中修館	熊本

佐々右左生	鹿本中	同	安田 勇	青森	客殿 賢	伊都中	和歌山
佐藤 淳	札幌二中	北海道	柳川 博	富山	楠 公道	平安中	岐阜
白木 一二	瀧川中	兵庫	吉田 享	神奈川	工藤 正一	竹田中	大分
杉本 一雄	滑川商	富山	小川 要一	東京	小池 直之	大泊中	山形
鈴木 敬三	京華商	東京	小倉 武男	東京	小泉 祐次	津 中	三重
高市 純徳	北豫中	愛媛	昭和一十年度	栃木	後藤 昂	松江中	島根
瀧澤 信治	小千谷中	新潟	鮎瀬浩次郎	栃木	後藤益太郎	粕壁中	埼玉
田中 三雄	鞍山中	佐賀	青木 孝二	山形	佐藤 好忠	清水商	静岡
檀谷 健蔵	佐倉中	千葉	石川 克巳	三重	佐藤 一雄	横濱三中	東京
時田 武	府立六中	東京	石井 秋元	静岡	關根 忠瑞	大連一中	茨城
豐 元國	府立六中	東京	岩島 繁	静岡	當山 佐道	市立東京	京都
生川 守雅	府立六中	東京	今關龍一郎	東京	高木 正光	鹿本中	熊本
東四柳正大	七尾中	石川	大久保潤一	千葉	瀧川 千秋	横須賀中	神奈川
藤城 亘男	豐橋中	愛知	大澤 清	長崎	龍山 三郎	横濱一中	神奈川
藤田 豊	勵精中	三重	景山研四郎	東京	田中 澤	青山學院中	東京
松田 兵部	郡山中	京都	川波 榮	滋賀	谷口 武治	海部中	東京
松本 武	三池中	京都	北原 眞人	福岡	土淵 英夫	府立二中	東京
三島 辰男	日本中	福岡	木村 秀夫	長野	富永 博	平塚公立中	佐賀

米田	山名	森	宮川	三島	間宮	松本	松野	星野	藤好	藤田	二見	福地	匹田	秦	野田	西村	二條
光雄	隆之	高夫	經夫	安久	忠夫	眞	一郎	英三	善定	保二	省三	太郎	昌治	源之	泰玄	勉	正基
島原	磐城	海津	宇土	日本	宇治	宇治	中學	雅內	三池	靜岡	小田	龍谷	鶴岡	福岡	長崎	半田	奈良
第二中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
廣島	福島	岐阜	熊本	愛媛	三重	三重	福岡	東京	福岡	靜岡	神奈川	佐賀	山形	福岡	廣島	島根	東京
島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島	島
片桐	神田	大井	大野	大島	大石	上宮	內野	白田	石田	淺野	淺香	松尾	學部	松尾	渡邊	小田	渡邊
勤	一秋	英太郎	正忠	正夫	尙一	正三	五郎	甚五郎	博	榮一郎	正衛	馨	國文學科	馨	仁之助	基彦	仁之助
熱田	佐世	日大	高輪	足利	福島	洲本	芝	府立	熱田	長生	福島	神職	國文學科	神職	宇土	高津	宇土
中	保中	二中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
愛知	長崎	東京	佐賀	栃木	福島	兵庫	神奈川	東京	熊本	東京	福島	山口	山口	山口	大阪	熊本	熊本
西應	長坂	竹內	鈴木	杉村	菅野	潮崎	椎名	斯波	佐田	三枝	北口	菊池	龜山	龜田	川畑	金子	片山
一百	治道	節郎	留吉	欣三	茂郎	健一	胤孝	正義	孝治	浩吉	稔	幸一	秀延	研三	美輝男	守孝	清見
大川	西尾	京華	橫濱	京都	府立	海南	大成	靜岡	小千谷	日川	京都	長井	忠海	佐野	加治	橫濱	關西
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
香川	愛知	北海道	神奈川	京都	靜岡	和歌山	東京	靜岡	新瀉	山梨	奈良	岩手	愛媛	栃木	鹿兒島	神奈川	香川

西	丹羽	野上	野村	春田	樋口	堀	增田	三浦	三上	宮崎	宮田	御代	向井	村上	村田	望月	森口
三千春	久生	久生	嗣男	武	卓	廣次	誠	嚴	貫之	義弘	虎雄	武久	英彦	武夫	正明	安雄	武男
第二	八幡	成城	本郷	郡山	神通	千葉	遠江	遠江	庵原	天理	市立	磐城	湖南	小田	水戸	郡山	郡山
神戶中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
愛媛	埼玉	福岡	東京	同	奈良	富山	千葉	靜岡	同	宮城	三重	福島	神奈川	同	鹿兒島	山梨	奈良
媛	玉	岡	京	同	良	山	葉	岡	同	城	重	島	川	同	島	梨	良
矢島	山名	安井	吉田	小倉	小田	小幡	相川	梅里	大熊	賀古	葛西	加藤	河村	上村	木村	正享	正享
滿美	定雄	五郎	義勝	學	切勝	政治	輝信	正治	勇陸	明	順夫	克巳	安衛	信章	正享	正享	正享
諏訪	川崎	飯肥	住吉	府立	府立	府立	成城	浦和	巢鴨	水戸	明倫	福島	浦和	麻布	新瀉	高千穂	高千穂
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
長野	福島	宮崎	大阪	石川	山梨	東京	神奈川	埼玉	山梨	茨城	東京	新瀉	埼玉	神奈川	新瀉	東京	東京
野	島	崎	阪	川	梨	京	川	玉	梨	城	京	瀉	玉	川	瀉	京	京
菅野	後藤	後藤	後藤	小林	齋藤	坂卷	嶺山	櫻谷	佐藤	佐藤	篠原	清水	清水	正村	白幡	白井	杉本
克彦	是美	正美	彌廣	篤	博之	四郎	祐宏	博	次郎	道夫	秀彦	忍	正民	正	仁	永二	繁
仙臺	熊本	松江	東京	靜岡	成城	商工	鹿兒島	石卷	中津	松山中	惠那	鎮西	廣島	第一	氣仙	豐橋	輪島
中	中	中	中	中	中	習	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
宮城	大分	島根	東京	靜岡	東京	神奈川	鹿兒島	宮城	大分	埼玉	岐阜	長崎	廣島	長崎	宮城	愛知	石川

荒井 松平	有賀 敬三	池山 廣	石上 順	伊藤 秀一	石橋 亮平	漆原 辰雄	奥山 三郎	大木 達雄	大野 順三	大平 浩	河野 斌	角井 潔	加地 禮太	金城 直孝	金子 正	川崎嘉之助	北垣 靜男
集鴨中	日本中	芝 中	青山學院中	聖峰中	鹿島中	龍山公立中	本郷中	明治中	府立二中	磐城中	濱田中	横濱第一中	千葉中	沖繩二中	横濱三中	明石中	京都一中
同	長野	東京	同	愛知	佐賀	香川	東京	千葉	東京	福島	島根	神奈川	千葉	沖繩	神奈川	兵庫	京都
齋藤 尙一	齋東 正輝	坂口 正美	坂田 正和	佐津川修二	佐野 正治	(岡)澁谷敏夫	(廣)澁谷敏夫	下平 倫訓	鈴木 國郭	鈴木 辰郎	末山 義正	瀧澤 虎雄	立川 誠之	塚本 隆	富田 俊一	永沼運之進	西尾 武夫
山形中	安房中	成城中	長岡中	脇町中	安東中	吉野林業	廣島二中	飯田中	川崎中	浦和中	都城中	加茂農林	奉天中	志太中	栃木中	水産學校	豐津中
山形	千葉	神奈川	新潟	德島	三重	岡山	廣島	長野	千葉	秋田	山口	新潟	同	靜岡	栃木	宮城	福岡
萩原 芳郎	羽倉 信光	林 茂男	發知 正三	丸澤 敏英	三島 徹	宮丸 謙二	宮村 壽夫	村田 愛雄	村山 正三	百瀬 宗明	森下 龍雄	森 知矩	森安 正宏	森岡 鍊二	安村 利行	山田 爲康	吉川 泰雄
木郷中	高輪中	磯波中	丸龜中	日本中	德山中	麻布中	神通中	横手中	東洋商	不動岡中	靜岡中	市岡中	郡山公立中	富岡中	中津中	廣島二中	本郷中
東京	同	富山	香川	新潟	鹿兒島	秋田	富山	秋田	京都	東京	靜岡	奈良	香川	德島	福岡	廣島	東京

杉山 典	鷺見 正則	陶山 正義	高下 董	高梨 武	高橋 一修	高橋 覺	田窪多理甫	竹内 榮一	田坂 守人	田島 輝雄	田中 三郎	玉井 貞藏	千葉 茂生	知野根好宣	坪井 淳	戸口 龜昌	德永 正憲
本巢中	米子中	明善中	野綜合中	府立二中	市立東京	山形師範	今治中	浦和中	小城中	府立七中	商工實習	本郷中	錦城中	府立三中	京北中	大成中	第二鹿兒島中
岐阜	鳥取	福岡	神奈川	東京	同	山形	愛媛	埼玉	佐賀	東京	靜岡	山形	東京	同	岡山	埼玉	鹿兒島
鳥居 正博	中島 嘉三	中根 寛	中村 喬	中村三土夫	中村 泰正	原 勝文	東山日出照	平野 成彌	堀 虎雄	松倉 重興	松永 禮三	松本 龍雄	前里 道明	前田 秋三	眞屋 調	水野 利夫	宮川 淳
成城中	海草中	早稻田中	天王寺中	嘉穂中	武義中	東筑中	神戶中	長生中	宮津中	富田林中	沼津中	府立九中	第三神戶中	川崎中	三豐中	府立五中	府立農林
東京	熊本	東京	大阪	福岡	山形	福岡	三重	千葉	長野	大阪	靜岡	福岡	鹿兒島	神奈川	香川	東京	同
宮下 典男	宮尾 和夫	村田 邦夫	村尾 香苗	森野 國雄	守屋 素衛	矢島 清文	山極 眞平	山邊將次郎	山脇甚兵衛	横田 正次	米津 千之	若尾 義一	井口 隆	小川 泰邦	小貫 辰雄	秋元 輝	昭和一十一年度
東葛飾中	筑上中	横濱三中	關東學院中	市岡中	市立東京	諏訪中	上田中	弘前中	高輪商	高田中	市立東京	惠那中	龍野中	明石中	臺北商業	府立二中	府立二中
千葉	福岡	神奈川	靜岡	兵庫	東京	長野	同	青森	滋賀	新潟	東京	岐阜	兵庫	同	栃木	東京	東京

吉田 謙徳	吉田 昌徳	横井 緑時	龍 英勝	和田 武典	岡崎 正徳	荻原美樹雄	赤坂 三男	有田 武道	安堂 正信	伊木 尚茂	伊草 正巳	石井 昌國	池田 宏	伊東 秀夫	稻垣 豊彦	稻葉 博
畝傍 中	卷 信	惟 信	大島 中	大連 一	若松 中	攻玉社 中	高輪 中	保善 商	天理 中	本郷 中	粕壁 中	名教 中	中野 中	仙臺 一	瀧川 中	葦山 中
奈良 良	新瀨 中	愛知 島	鹿兒島	廣島	大分	東京	福岡	鳥取	東京	山口	埼玉	東京	埼玉	宮城	兵庫	静岡
岩崎 明	伊場野 力	岩本 徳一	上山 甫	白杵 華臣	上井 眞澄	江藤千萬樹	大内 幸夫	大久間喜一郎	大熊九八郎	神山 將章	寛 弘毅	笠島 善壽	梶野 行直	川上 四郎	簡野 孝義	木宮 之彦
早稻田 中	東北 中	海城 中	桑名 中	防府 中	飯山 中	沼津 中	佐原 中	川崎 中	水戸 中	鞍山 中	青山學院 中	下妻 中	鞍山 中	興國 商	府立五 中	静岡 中
東京	宮城	東京	三重	山口	鹿兒島	静岡	茨城	茨城	茨城	埼玉	東京	茨城	京都	大阪	東京	静岡
木村 廣道	九島 春男	畔柳 文雄	小磯 武	小泉 秀男	小林 斌	小林 正巳	齋藤 恒雄	坂庭 秀清	佐々木忠雄	島 正三	鹽塚 輝男	鈴木 隆信	鈴木 正一	鈴木 武彦	瀬浪 孝平	外垣 豊重
三島 商	能代 中	明倫 中	本牧 中	今市 中	静岡 中	岩村田 中	東京高師 附屬 中	鳳 中	第一東京 市立 中	第一東京 市立 中	獨逸學協會 中	中學傳習館	豐橋 中	掛川 中	日本大學 中	第一岡山 中
静岡	秋田	愛知	群馬	栃木	東京	長野	東京	大阪	東京	東京	同 東京	福岡	愛知	静岡	千葉	岡山

高島 邦彦	武部 越夫	田中幸太郎	丹野 實	辻橋 三郎	寺田 里盛	土信田誠之助	利行 學而	富田 收	豊田 光東	中島 正秋	中田 清治	中根 正雄	長濱 正彦	中本 一郎	中井 治成	南里 茂	西村 卯一
東海中	千葉 中	三豐 中	大連二 中	同志社 中	九段 中	早稻田實業	國東 中	豊橋 中	府立九 中	武雄 中	明治 中	不動岡 中	中學明善	高梁 中	郡山 中	若松 中	本牧 中
愛知	千葉	香川	和歌山	熊本	東京	同 東京	大分	愛知	東京	佐賀	三重	埼玉	福岡	岡山	奈良	佐賀	神奈川
野口 義助	長澤 敏久	萩野 正	橋本 忠恒	長谷川 武	長谷川 良行	樋渡 清一	平佐田 涉	平松 季夫	廣瀬憲太郎	深澤 福二	藤原 恭平	藤本 榮三	藤好 文男	古川 漢一郎	保刈 順		
佐賀 中	水戸 中	金澤一 中	東京 中	甲陽 中	第一東京 市立 中	指宿 中	川内 中	和歌山 中	獨逸學協會 中	清水 商	大連一 中	石橋 中	中學傳習館	三條 中	川内 中		
佐賀	茨城	高知	東京	兵庫	東京	鹿兒島	同 鹿兒島	和歌山	岐阜	静岡	兵庫	栃木	福岡	新潟	長野		
牧田 茂	間島日出雄	松本 光重	松本 義男	前橋 孝寛	三浦 正彦	三上 徳治	三木 正行	宮古 正宣	宮田 敏行	宮地 重夫	村上 巖	毛利多智雄	桃井 尚	諸橋 勳	矢迫 眞吉	山川 弘至	山崎 敏
京都二 中	府立三 中	日川 中	松山 中	郡山 中	巢鴨 中	川越 中	成城 中	双葉 中	佐野 中	畝傍 中	九州學院	金澤三 中	甲府 中	東京高師 附屬 中	獨逸學協會 中	岐阜二 中	有恒學會
京都	東京	山梨	埼玉	鳥取	福岡	埼玉	東京	福島	栃木	京都	熊本	石川	山梨	新潟	東京	岐阜	新潟

山下憲一	城東中	高知
山田清春	天理中	和歌山
山田勇作	中學明善	福岡
山本安磨	吉田中	愛媛
行弘桃太郎	福岡中	福岡
橫井靜男	丸龜中	香川
吉田延夫	多度津中	同
吉成安治	宇佐中	大分
吉本兵俊	郡山中	京都
立仙憲一郎	立教中	高知
我妻豐雄	興讓館中	山形
若松義衛	盛岡中	岩手
亘理梧郎	白石中	宮城
井内昌治	阿波中	徳島
井上菅一	鹿本中	熊本
惠良龍行	徳山中	大分
小柏信重	郡山中	奈良
尾崎暢映	日本中	鹿兒島

豫科 第一學年甲組

麻生明	天理中	大分	木村茂次	小城中	佐賀
有木千之	福山誠之館中	廣島	來海一美	米子中	鳥取
石井利章	三豐中	香川	葛谷醇一	高輪中	岐阜
市川章雄	豐橋中	愛知	兒玉幸雄	大分中	大分
奧村伸定	仙臺二中	宮城	小林辰夫	安房中	千葉
長昌夫	大連二中	鹿兒島	佐藤弘明	喜多方中	福島
大川廣海	鶴岡中	山形	三溝秀雄	本郷中	長野
大藪實	室蘭中	北海道	曾我宗俱	掛川中	靜岡
笠井巧	丸龜中	香川	武石直政	野付牛中	北海
花山院親忠	沼子開成中	東京	手島慶直	麻布中	茨城
片岡榮一	京都二中	滋賀	寺田義夫	田川中	福岡
川瀬久夫	山形中	滋賀	中野眞琴	北海中	東京
河合岑生	成章中	愛知	橋本盛種	山口中	山口
川眞田主基夫	徳島中	徳島	原浩	嘉穂中	福岡
河村豐	濱松一中	靜岡	原駿	保善商	東京
甲斐久夫	嘉穂中	福岡	布施紀郎	大分中	大分
				中學明善	福岡
				府立二中	東京

藤原一郎	福岡中	福岡
古川哲郎	三養基中	佐賀
松永茂雄	府立二中	東京
宮川陸	佐渡中	新潟
向井義夫	宮津中	京都
村松竹雄	掛川中	靜岡
森川喜太郎	天王寺中	大阪
安田虎雄	粉河中	和歌山
吉井良兼	甲陽中	兵庫
渡邊忠守	浦和中	埼玉

豫科 第一學年乙組

梅木武雄	郡山中	奈良	中村春壽	奈良中	奈良
大森多喜夫	郡山學協會中	東京	濱本徹次	府立二中	京都
河野武夫	橫濱三中	神奈川	平田泰生	明善中	福岡
菊亭實賢	學習院中	京都	藤澤袈裟雄	長野中	長野
小菅正三	土浦中	茨城	堀孝	靜岡商	靜岡
佐伯良光	富山中	富山	前田義助	日本中	東京
阪本金次郎	茨木中	大阪	松永龍樹	府立二中	同
篠崎善之助	府立二中	栃木	松尾克美	本集中	岐阜
鈴木一德	東北學院中	愛知	三浦敬直	瀧川中	本集中
鈴木高男	日本中	新瀉	皆川寛義	京都三中	京都
住原正胤	中津中	大分	美濃部良介	日大二中	東京
曾田震五	京都三中	山口	宮成公康	麻布中	大分
高野一郎	酒田中	秋田	室原秀一	北野中	大阪
多々納三郎	松江中	島根	森孝彦	佐賀中	佐賀
田村堅幹	高田中	新潟	吉井良信	甲陽中	兵庫
辻田内外美	京都二中	滋賀	若月吉信	大社中	島根
辻村銑一	靜岡商	靜岡	渡部悌治	酒田商	山形
中坪勝	北海中	札幌	和知一	白河中	福島

猪谷 桃彦	大山公立中	群馬	菊池 武雄	市立一東京	東京	牧田 益男	京華中	東京
小野 勝彬	大社中	島根	木原 立美	防府中	山口	前田 實	市岡中	大阪
豫科 第一學年丙組								
秋吉 哲郎	郡山公立中	熊本	窪田 研二	大町中	宮崎	三木眞太郎	彦根中	滋賀
葦名 盛親	仙臺二中	宮城	栗原 博夫	大分中	熊本	三島 安精	府立六中	愛媛
天池 貞士	鶴岡中	山形	阪本 隆之	川越中	埼玉	壬生 忠臣	京都三中	靜岡
荒井 靜壽	府立六中	東京	酒井 忠昭	鎮西中	同本	森川 馨	東海中	愛知
安藤 甚郎	都留中	山梨	篠 榮助	日大二中	東京	矢野 太郎	府立七中	東京
石井八十治	天理中	東京	鈴木 哲男	鳥取一中	三重	米澤 八作	高岡中	富山
磯部 健雄	小田原中	神奈川	千家 遂彦	本郷中	福島	米山 博章	鳥取一中	鳥取
伊藤 泰和	佐原中	千葉	醍醐 重夫	大社中	島根	渡邊 孔夫	早稻田中	東京
梅木 春和	奈良中	奈良	千葉 國胤	船橋中	千葉	小川 信雄	芝 中	靜岡
江森 三郎	館林中	群馬	寺島 幸雄	明治中	東京	緒方 嘉和	熊谷中	東京
大越 忠夫	水海郎中	茨城	長友 捷	宮崎中	東京	乙益 重隆	人吉中	熊本
大原 宗徳	世羅中	廣島	原 正一	山形中	宮崎	緒方 嘉和	妻 中	宮崎
長田 實	高輪中	静岡	平田 年久	大連二中	長崎	糸原 周二	松江中	島根
加藤 富太	福井中	福井	古野 勳	中野中	福岡	糸原 周二	島根	島根

金本 浩次	大田中	島根	工藤 祐	青森縣師範	青森	玉井榮一郎	宇陀中	奈良
土橋 剛	龍野中	兵庫	國重小五郎	中岡山贊	山口	田村 桂祐	浮羽中	福岡
第二部								
谷澤 能剛	高松商	香川	櫻井 芳雄	成田中	千葉	千葉 正美	一ノ關中	廣島
足立原 勝	厚木中	神奈川	菅原 正雄	氣仙沼中	宮城	中山 崇	東京府立	東京
内田 新也	土浦中	茨城	鈴木 外鷹	高岡中	富山	西川 衛	東京府立	東京
石井 建三	關東中	千葉	鈴木 正夫	基隆中	静岡	西田 俱若	松江中	島根
岩下 周一	川邊中	鹿兒島	住友 恒雄	長岡工業	德島	西原 克巳	忠海中	廣島
大貫 吉郎	相原農蠶	東京	高鹽 幸雄	宇都宮中	栃木	西村 純一	市岡中	大阪
加藤 正夫	東筑中	福岡	高瀬 進	九州學院	熊本	新國 武彦	柏崎中	新潟
鎌田彌三郎	住吉中	大阪	高野 貞一	岐阜商業	岐阜	橋本 信房	日田中	大分
岸本 一郎	豊山中	埼玉	瀧口 恰	國東中	大分	早川 章	熱田中	愛知
木津 豐造	八戸中	青森	竹田 正虎	高輪中	東京	平井 金吾	錦城中	靜岡
木梨 貢	宗像中	福岡	竹俣 壽高	國士館中	東京	平尾 眷一	青森中	青森
草野一四郎	諏訪中	富山	田代 諒哉	東筑中	福岡	藤井 眞次	飩肥中	宮崎

高等師範部第四學年 第一部

寶月 政雄	不動岡中	埼玉	青木 年枝	淺野綜合中	神奈川	川崎 誠	安房中	千葉
松岡 禮一	生野中	三重	荒川 秀正	秋田中	秋田	河島 醇三	見付中	靜岡
宮津 清	國東中	山口	池内 壽夫	松山中	愛媛	河村 賢典	萩 中	山口
村上金三郎	八戸中	青森	池田 巖	糸魚川中	新潟	神田 快三	廣島第二中	廣島
村上 良一	豐津中	福岡	伊藤 信	京北實業	宮城	神田 秀男	海城中	埼玉
元山 武	豐原中	廣島	岩崎 俊夫	鹿屋中	鹿兒島	北村 勇	逕子開成中	埼玉
諸橋 弘	三條中	新潟	宇野 悅郎	京北中	茨城	久保寺 勇	山梨縣師範	山梨
山崎哲太郎	靜岡中	靜岡	上野 隆司	宇都宮中	栃木	菓子 吉郎	横手中	秋田
若林 正夫	淺野綜合中	長野	梅澤 行雄	厚木中	神奈川	古賀 憲次	八幡中	福岡
猪野 敏	宇都宮中	栃木	落合 虎雄	都城中	鹿兒島	古財 陸男	玉名中	熊本
(別)山本晴男	宇都宮中	栃木	太田 榮男	庵原中	靜岡	小菅 一郎	横濱第二中	神奈川
(選)能門政利	神宮皇學館	大分	大谷新一郎	山口中	滋賀	坂井 覺	神明善養	福岡
(選)古川 迺	神宮皇學館	三重	大橋 文彦	八日市中	山口	櫻澤 政次	海城中	埼玉
赤澤勇之進	淺野綜合中	神奈川	大森 幹壽	奈珂中	神奈川	佐藤 幸司	靜岡中	靜岡
秋山 茂	多度津中	香川	加藤 良弘	羽咋中	東京	篠木 三雄	神戶中	三重
			金澤 正明	第一大學	東京	首藤 俊夫	白杵中	大分
			狩野 治	東京府立	東京	鈴木 是	巢鴨中	愛知
				第五中	東京	鈴木多喜男	大目公立中	千葉

須田 豊	巢鴨中	東京	長谷川幸男	三條中	新潟	有吉 貞夫	開谷中	岡山
末松 辰雄	神明善養	福岡	服部 桓治	吳第一中	東京	青木 滋	奈珂中	神奈川
瀬戸 敏郎	本巢中	神奈川	林 三郎	三國中	福岡	石川 哲三	横手中	秋田
會我 正致	湘南中	新潟	福田 岩雄	豐津中	福岡	石井 正二	宇都宮中	栃木
大導寺 廣	越知中	愛媛	藤原 正也	小野中	京都	祝出 秀清	攻玉社中	大分
高山 三郎	本郷中	群馬	藤原 三郎	成城中	北海道	岩本 辰丙	麻布中	長野
竹村 安夫	成田中	千葉	松木 成人	國東中	大分	今川 良治	府中中	廣島
田中 春夫	八女中	福岡	宮林 章格	屋代中	長野	浮島美之助	藤枝農業	靜岡
田中 芳夫	松江中	島根	森山泰太郎	弘前中	青森	梅澤 光雄	不動岡中	埼玉
陣内 慶雄	小城中	佐賀	横田 茂	秩父農林	埼玉	大沼 忠雄	秋田中	秋田
塚田 幸雄	羅南公立中	群馬	吉永 正弘	前橋中	群馬	大羽 吉久	横濱第二中	愛知
富澤 安治	安東中	鳥取	芳野 芳郎	嘉穂中	福岡	片桐 靖門	新潟中	新潟
中村 鎮二	東京開成中	徳島	井上 茂	佐賀中	佐賀	片桐登喜夫	愛知中	岐阜
二宮 利光	堺 中	大阪	井ノ口豊男	桃山中	大阪	加藤晃之助	小牧中	愛知
野出 敏一	七尾中	石川	小野 春雄	寒河江中	山形	榊 十百	目白商業	福岡
野本 水哉	不動岡中	埼玉	(別)石川一雄	愛知國學院	愛知	川口 善三	八女中	福岡
萩原 正彦	龍谷中	茨城						

高等師範部第三學年

第一部

來島 正彦	松江中	島根	高橋 幹夫	武生中	福井	藤井澄三郎	神奈川
來山 保	盈進商業	廣島	立子山正光	安達中	福島	增田 豐	日大第四中
淨見 晴夫	宗像中	福岡	龍山 次郎	淺野綜合中	神奈川	松浦 國男	尾道中
桑原 大典	鹿本中	熊本	伴野万木知	野澤中	兵庫	松宮 順	榛原中
郷古 俊美	仙臺第一中	宮城	千種 訓夫	柏原中	兵庫	松元 雅	日大第二中
小島 爲雄	錦城中	東京	中島 英夫	瀧川中	長野	松本 義人	川邊中
小島八洲生	世田谷中	東京	中村 正	粕壁中	埼玉	丸山 實	東筑中
齋藤 忠明	嘉穂中	大分	野本郁太郎	十日町中	新潟	三浦 秀一	會津中
齋藤哲之輔	太田原中	栃木	橋岡 忠彦	忠海中	廣島	三井英一郎	小樽中
佐藤 眞琴	磐城中	福島	長谷川 淑	昭和一商業	鳥取	宮 實	小縣蠶業
猿渡 博來	三池中	福島	林 晴雄	撫養中	德島	森永 政勝	神奈川
柴原 修	川崎中	神奈川	原田 十郎	忠海中	廣島	矢島 赶	武義中
島村 安一	佐野中	栃木	日野 四郎	熊谷中	埼玉	安富 熙	防府商業
白井 博	豐橋中	愛知	平野 英一	松江中	群馬	安富 政雄	玉名中
鈴木 清	成東中	千葉	平尾 忠	京北中	群馬	八幡 光丸	明石中
鈴木 英幸	佐原中	千葉	福澤 重徳	大町中	長野	山口 源藏	青森中
高千穂有平	豐津中	福岡	淵上 唱一	川内中	鹿野	和田 良正	市岡中
高橋 顯	葦山中	静岡	藤井 周一	門司中	山口	井上 正年	妻市中

岡田 守義 道松第一中 静岡 岡

小田寛次郎 鹿島中 佐賀 岡

高等師範部第三學年

第二部

淺沼 康雄	酒田中	山形	吉川 性一	三田中	東京	鈴木 正市	兩洋中	愛知
安孫子五市	興讓館中	同	鬼頭 淳二	攻玉社中	東京	鈴木 丈夫	伊那中	長野
阿部遞一郎	野邊中	青森	喜納 正則	新竹中	愛知	添田 邦雄	石川中	福島
渥見 文平	靜岡中	静岡	清原 要	佐伯中	大分	武田 誠之	蘭部中	同
石池 泰三	開谷中	岡山	工藤 彰	弘前中	青森	武井 英夫	靜岡中	東京
磯野 英一	明石中	兵庫	工藤 大策	竹田中	大分	正 長純	駒込中	佐賀
今村 功	浦和中	福岡	熊澤 恒雄	寒河江中	山形	千布 淳	三養基中	埼玉
岩崎 信喜	津中	三重	小島 威彰	高岡中	富山	常見 善策	熊谷中	埼玉
内田 一郎	目白中	東京	小林 末夫	加古川中	兵庫	德永 昌之	三池中	福岡
大鹿 治夫	津島中	愛知	齋藤 慎一	豆陽中	静岡	土居 五秋	忠海中	廣島
大平 弘	日大第三中	静岡	齋藤 正義	吳第一中	熊本	中澤 信一	屋代中	長野
大津 明	關東學院中	神奈川	七田 忠志	三養基中	愛知	中島 隆治	粕壁中	埼玉
大宮美年臣	膳所中	滋賀	鹽川 清人	松本中	長野	中根 義仁	東開成中	東京
川島 藏人	不動岡中	埼玉			長野	神宮 章吾	中開成中	群馬

中山 周三	山陽中	廣島	三宅 勉	村上中	新潟	沖濱 英男	吳第二中	廣島
野澤 實	佐野中	栃木	宮ノ首大壯	廣島第二市	廣島	大館 義雄	天理中	埼玉
野中 豪藏	三養基中	佐賀	橫山 昌三	宇都宮中	廣島	大谷 鐵藏	余市中	北海道
萩原 清	見付中	靜岡	和氣 勳	丸龜中	香川	大場 三郎	塞河江中	山形
橋元 眞澄	佐世保中	鹿兒島	綿田 巖	須坂中	長野	鹿島 信夫	日新商業	鹿兒島
長谷川弘之	沼津農業	靜岡	渡邊 松久	磐城中	福島	金本 朝一	浪華商業	德島
濱 幸雄	攻玉社中	德島	井岡 峻一	天王子中	奈良	川島 和之	成東中	千葉
服藤 憲正	今治中	愛媛	小川 孝敏	千葉中	長崎	菅野 鐵雄	保原中	福島
東島 正喜	門司中	熊本	小代 義正	三重農業	大分	淨見 守	宗像中	福岡
平川 卓夫	府中中	廣島	小野 健雄	塞河江中	山形	黒木 重弘	小豆島中	香川
深田 辰生	勵精中	三重	藤澤 信	長野中	長野	古賀 哲一	麻布中	東京
福本 榮一	東京府立 第六中	東京	池田 哲夫	日川中	山梨	小林 知視	麻代中	長野
福本 正弘	伊丹中	兵庫	池田 一	大川中	香川	近藤 義盛	奈珂中	神奈川
藤元 博祐	北陸中	福井	伊丹 忠義	德島中	德島	齋藤 晴勇	成東中	千葉
古川 正	金光中	岡山	今村 一郎	東京府立 第二中	東京	佐脇 榮尚	淺野綜合中	神奈川
古谷 一民	淺野綜合中	神奈川	植松 今	鹿島中	東京	椎橋鏡次郎	高輪中	東京
松永 俊彦	津山中	岡山	今	佐賀	佐賀	岡田 勝人	津中	東京
三谷 博行	三次中	廣島						三重

菅田 誠	育英中	宮城	宮内 宗近	川内中	鹿兒島	荒卷 時夫	八女中	福岡
杉浦 弘	成城中	愛知	日時隆太郎	岩手中	岩手	五十嵐久章	三條中	新潟
杉浦 忠雄	惟信中	愛知	森 公夫	菲山中	靜岡	石原 尙	倉吉中	鳥取
田中 良作	下野中	栃木	森本 幸雄	上野中	三重	一宮正七郎	杵築中	大分
中村 昭	富山中	福島	森脇 寶夫	大田中	島根	泉 正典	鹿兒島中	鹿兒島
並河 良允	大田中	島根	山口 忠雄	德山中	北海道	今木 秀夫	飯田中	長野
西田 勇	福井中	福井	吉田 丈夫	磐城中	佐賀	今村 寬	日本中	同
新田 林司	野付牛中	北海道	吉田 久夫	關東學院 中學校	福島	上田 忠男	國東中	大分
根本 信男	日本中	東京	渡部 渡	塞河江中	神奈川	大石 信夫	八女中	福岡
濱野 美水	松本第二中	長野	井田 順登	川崎中	山形	大川 恒夫	天王寺中	大阪
原 義夫	富士中	靜岡	網崎 正巳	高知城中	神奈川	大住 眞澄	厚木中	神奈川
東 忠夫	川邊中	鹿兒島	小口 欽也	大町中	高知	大場 敏之	富山中	富山
引田 文夫	秋田中	北海道	小野 正治	岡崎中	長野	加賀 勇吉	横山中	秋田
福永 幹生	大分中	北海	(聽)前田孝	明大豫科	愛知	柿堺欣一郎	東京開成中	埼玉
本田 正巳	瓊浦中	長崎	高等師範部第二學年	奈良	奈良	春日 和也	志布志中	鹿兒島
眞壁 博	國士館中	東京	第二部			加藤 敬三	岡崎中	愛知
三川 一行	廣島第二中	廣島				金澤 直人	水戸中	茨城
川村 敬久	松本第二中	長野	安部 道弘	大分中	大分	河合 敏雄	西尾蠶絲	愛知

川久保義夫	今市中	栃木	土屋光衛	沼津中	靜岡	前島教一	茨城
川村良夫	關東學院中	神奈川	常秀	大島中	鹿兒島	丸山了右	香川
神原博美	海部中	德島	常松卓三	富岡中	德島	三浦亮	福島
草野正五	龍山公立中	佐賀	坪井邦夫	熱田中	愛知	美田村直正	京都
草岡喜長	豐山中	東京	中島豐晴	松本第二中	長野	宮地榮人	福岡
高塚醇	柏壁中	埼玉	長野昌雄	新瀨商業	長野	武藤清久	茨城
小松實藏	寒河江中	山形	中谷哲郎	靜岡中	新潟	宗石博信	茨城
小山一重	濱松第一中	山形	中山禮治	靜岡中	新潟	村本幸一	福井
小山巳之助	濱松第二中	山形	永井隆久	小千谷中	新潟	村岡信	富山
坂田力三	京都第二中	京都	西岡弘	巢鴨中	東京	村岡信	佐賀
佐々木辰雄	龍谷中	青森	沼田定男	北野中	大阪	森恒	靜岡
佐藤顯磨	中村中	高知	橋本正治	仙臺第一中	大阪	森忠治	靜岡
佐藤亮雄	札幌第二中	北海道	長谷川豐	松江中	島根	矢部九味男	富山
鈴木義康	大社中	島根	早川登	松江中	山梨	山本保	神奈川
高村德之助	京北中	東京	廣川幸藏	横濱第一中	山梨	吉永文男	熊本
立花一夫	正則中	東京	細野博	龍ヶ崎中	群馬	吉灘立	鳥取
田所輝男	成章中	愛知	町田幸夫	前橋中	群馬	蓮花駿雄	富山
	烏山中	栃木	松尾正	東京府立六中	埼玉	小形澄夫	新潟

高等師範部第一學年

第一部

朝蔭繁夫	郁文館中	東京	川崎勝三	青島日本中	廣島	多賀卓夫	奈良
安達昂郎	關西中	岡山	上村良作	米澤興讓館中	山形	瀧口貞雄	靜岡
厚見昌俊	金澤第三中	石川	菊地隆	梅檀中	秋田	土本巖	兵庫
阿部源藏	東京府立五中	新潟	國吉忠雄	神港中	滋賀	榑久市	群馬
阿部作美	八幡中	福岡	能澤滋夫	本牧中	千葉	樋田孝一	神奈川
安藤貞雄	佐伯中	大分	神代誠	安房中	同	長山公夫	大分
伊澤一雄	橫濱第二中	神奈川	小林晃	學明善堂	福岡	鳴瀨欽爾	福島
石田弘之	濱松第一中	靜岡	小峰廣	下關中	山口	宮崎欽治	神奈川
伊丹一郎	德島縣立農業	德島	坂口俊見	荏原中	茨城	長谷茂	富山
植松久	富士中	靜岡	坂田鎮生	東筑中	福岡	濱田健一郎	愛媛
大場助治	筑館中	宮城	佐藤貞夫	西海中	福岡	平田美穂	山口
大庭坤	若松中	福岡	佐藤一男	相原農蠶	新潟	藤敏郎	宮城
大島義成	七尾中	石川	關根深	鞍山中	神奈川	藤井文雄	宮崎
大原清	法政大學工業	長野	曾我貫市	不動岡中	宮城	本郷幸雅	宮崎
高祖卯吉	第一岡山中	岡山	高野一雄	佐渡中	新潟	松浦淳	北海道
香川勝	廣島第二中	廣島	高橋一之	廣島中	富山	松尾藤親	熊本
金子武四	米澤中	山形		中野中	宮城	丸山辰雄	石川

三ツ石清郎	福山誠之節中	廣島	安達一郎	米子中	鳥取	小谷敏行	鳥取第二中
水野清	榛原中	靜岡	荒木豐治	上田中	長野	小林親男	長野
宮本清鷹	田川中	福岡	青木三樹	熊谷中	埼玉	小柳元吉	靜岡
三井田吉彌	柏崎商業	新潟	池田和彦	宇佐中	大分	西郷淳一郎	愛知
村尾作一	福山中	鹿兒島	生駒正秀	膳所中	滋賀	作田稔	石川
目黒孝光	立正中	宮城	伊東隆司	九段中	長野	佐々木隆松	宮城
森勇夫	岐阜第二中	岐阜	稻垣孝平	西尾中	愛知	佐田義一	靜岡
安野正人	筑紫中	福岡	岩片和泉	高田農蠶	新潟	佐藤智明	山形
八十川寛	高松第一中	香川	印南清隆	西條農業	愛媛	澤路浩明	長野
山上秀英	中津中	大分	内海芳雄	京城公立中	東京	柴田重男	山形
山崎毅	志太中	靜岡	内海勉	橫濱第三中	愛媛	柴田重男	青森
山崎諭	佐世保中	長崎	大沼一夫	京城中	兵庫	清水正	山口
山邊生雄	龍谷中	佐賀	金子憲行	山形中	東京	白鳥清	長野
吉田迪生	岩國中	山口	木村眞三郎	上田中	山形	炭谷茂雄	靜岡
渡部源藏	喜多方中	福島	久保文武	豐浦中	山口	關口駒男	富山
小杉豐彦	中津中	福島	熊田正巳	上野中	山口	田代信一	富山
小川恒雄	海部中	大分	古賀公彦	八女中	山口	高島正英	富山

高等師範部第一學年

第二部

高野光由	豐原中	北海道	野口實	大島中	鹿兒島	三井直次	飯田中	長野
高橋勇	不動岡中	埼玉	橋本實	南筑中	長崎	三原保美	三藩中	福岡
高橋清門	府立第七中	千葉	長谷川浩司	豐原中	福岡	宮内正	麻布中	茨城
高橋巳壽衛	京華商業	東京	濱田皓	中學九州學院	熊本	森義亮	秋田中	秋田
千葉典胤	桑名中	三重	早川幸彦	茨城中	愛知	門名敏夫	見付中	靜岡
土田意一	村上中	新潟	平田嘉作	畝傍中	奈良	安原實行	豐浦中	青森
都築綠男	刈谷中	愛知	福田三省	俱知安中	石川	矢作時光	青森中	山口
角田等	厚木中	神奈川	藤間敏矩	佐世保中	島根	山崎好博	三次中	廣島
寺内武夫	石橋中	栃木	藤森壽夫	橫濱第二中	神奈川	井上謙二	大分中	大分
遠山光雄	村上中	新潟	古田丈夫	大阪府立	鳥取	井上智文	鶴岡中	山形
鳥澤眞平	本牧中	靜岡	堀井章	大邱公立中	靜岡	井上智文	高松中	香川
中川奏修	大島中	鹿兒島	政道元三郎	小濱中	靜岡	秋田昇	斐太中	東京
中島吉堯	府立第二中	栃木	増田友吉	七尾中	福井	朝山啓紀	松江中	島根
中西文夫	小城中	佐賀	松崎莊枝	磐城中	石川	阿部正好	桑名中	三重
長島康晃	大阪府立	三重	松平定房	名教中	愛媛	青木幸男	淺野綜合中	三重
長瀧初太郎	法政豫科一	愛知	松尾龍	平城公立中	山口	池田隆年	上野中	三重
並木一雄	横濱第二中	神奈川	三浦九一	享榮商業	愛知	伊藤清嗣	大館中	秋田

神道部第三學年

伊藤 幸枝	秋田中	秋田	杉峰 俊男	多度津中	香川	松井 薫	兩洋中	滋賀
伊場野 讓	東北中	宮城	高屋 卯一	豐橋中	愛知	松井 國男	豊橋第二中	愛知
飯山 壽八	大社中	島根	田島友三郎	不動岡中	埼玉	松岡 範純	嘉穂中	福岡
岩崎 一敏	宇土中	熊本	橋本 正	徳山中	山口	水澤 清人	野澤中	長野
梅辻 茂樹	今津中	滋賀	田所 貞時	鳳 中	大坂	南 須賀男	京都第二中	京都
大武 資友	大田原中	栃木	田中由貴夫	柏原中	兵庫	宮本眞喜男	耐久中	和歌山
大塚 正雄	鶴岡中	山形	長 一	第二本計	島根	村田 烈	鹿兒島第二中	鹿兒島
大橋 義知	濱松第一中	山形	坪内 良	大社中	栃木	村山 三郎	厚木中	神奈川
加藤 忠直	岐阜中	愛知	坪井 勳	關西中	島根	百瀬 千尋	松本第二中	長野
熊野 季文	鳥取縣立工業	島根	中田 邦人	鎮西學院中	岡山	柳川 光	八戸中	青森
藏重 命之	學濟之變	東京	奈良 正禎	木造中	長崎	山内 磐夫	奉天中	山口
黒神 正治	徳山中	山口	西村 正	富士中	青森	山田 臣紀	桃山中	岐阜
黒川 英三	立命館中	京都	橋本 明義	津島中	愛知	山本由喜雄	新城農蠶	愛知
在間完一郎	宇治山田中	三重	花ヶ前正文	野付牛中	北海道	吉川 元一	西區商業	大坂
櫻岡 米藏	大田原中	栃木	日高 彰悟	鞍手中	福岡	吉田 嵩壽	尾張中	愛知
菅井 實	小濱中	福井	深井 好道	粕壁中	埼玉	米田 求	金澤中	石川
杉田 清	宮崎縣師範	宮崎	福井 永次	生野中	大坂	渡邊 正三	小濱中	福井
杉原 永慶	三國中	福井	松本 盛邦	酒田中	山形	井後 政秋	富田中	三重

岡本 哲一	金光中	岡山	大守 哲	天城中	岡山	高宮 行男	瀧川中	北海道
小串 松生	桑名中	三重	片山 保	木ノ本中	三重	竹内 正	上田中	長野
川崎 弘美	愛知國學院	愛知	加藤 陸夫	葦山中	愛知	田中 儀一	高知城中	兵庫
久保田正己	神職養成部	長野	神田 足水	飯肥中	宮崎	田名部典比古	木造中	青森
久保田正己	京都國學院	香川	北村 正年	京北中	栃木	近森 治水	高知城中	高知
久保田正己	京都國學院	滋賀	九鬼 宗隆	明石中	兵庫	塚原 國夫	熱田中	栃木
辰巳 太市	京都國學院	滋賀	久米 吉彦	刈谷中	愛知	土田九二三	村松中	新潟
小佐野昇二	神職養成部	山梨	小林 正	東京中	東京	徳久 秀雄	佐賀中	佐賀
秋保 親武	鶴岡中	山形	坂田 泰	府立第三中	東京	西岡 五郎	奉天中	徳島
池田 蓮平	市立中	新潟	酒井幸比古	北海中	北海道	野口 政樹	天草中	熊本
稻積 包嘉	正則中	大分	笹野 正雄	豊橋第二中	愛知	秦 重憲	大社中	島根
岩崎 辰彦	順天中	東京	篠田 三郎	刈谷中	愛知	拵石 和美	専檢合格	長野
岩重 武巳	第二鹿兒島中	鹿兒島	篠原 源晃	豊橋第二中	愛知	羽田 守典	旭川中	北海道
上野 元	新宮中	和歌山	柴田 直孝	旭川中	北海道	福田 正信	寒河江中	山形
浦 正福	旭川中	北海道	澁谷 順三	明倫中	愛知	古橋 博	東海中	愛知
大内 義郎	成東中	茨城	菅原 泰三	宇和島中	愛知	星野 芳郎	小千谷中	新潟
大竹健次郎	岡崎中	愛知	須合 正美	匝差中	千葉	間野 勝巳	豆陽中	新潟
大場 正巳	専檢合格	東京	高島 久雄	上野中	三重	前原 直樹	桐生中	群馬

岡本 豐多	東葛中三年	千葉	野澤 安臣	島原中	長崎	齋藤 一雄	濟美中三年修	東京
市川 健三	成立商業	東京	平山 重正	佐原中	千葉	坂之上清藏	日置尋高	鹿兒島
居川 務	伊香農學	滋賀	宮地 賢吉	相馬中	福島	下藤 金司	補習卒	千葉
植木 山櫻	島原中	長崎	山形 勝幸	高知城中	高知	杉田 忠朗	延岡中三年修	宮崎
奧 一作	海草中	和歌山	岡田 士朗	高知城中	高知	杉山 太郎	國士館中	東京
加賀美精璋	日川中	山梨	神職養成部第一學年	高知城中	高知	杉原 章夫	關東學院	東京
川崎 重彦	安房中	千葉	青木 一男	新葛尾尋高卒	群馬	田中 正二	高知城中	神奈川
神田 輝雄	新養州公立中	岡山	秋山 信壽	長狹中三年修	千葉	田中 實	一高知城中	兵庫
加藤 弘代	金澤中	石川	五十嵐千早	旭川中三年修	北海道	中川 太平	粕壁中卒	埼玉
河野 好武	順天中	神奈川	植栗 嘉藏	薄根尋高卒	群馬	畑中 進	練倉中三年修	福井
小林 鬼一	國士館中	東京	內山幸三郎	中條農學	新潟	日高 勇	世田谷中	鹿兒島
進藤 一郎	島原中	長崎	大久保春道	三年卒	東京	細野 喜八	東京府神職養成所卒	東京
田淵 久輝	鳥取第二中	鳥取	大西 啓之	日本中二年修	東京	堀籠 盛夫	南佐久農學	長野
長岡 一忠	礪波中	富山	菊池 迪親	深川尋高卒	北海道	松村 寬	京華商業	東京
永代 秀安	鹿嶋中	佐賀	窪木 圭治	下小川尋高	茨城	宮澤 宗一	松本夜間中	長野
西林 春雄	勝山中	岡山	小泉 忠澄	三年卒	宮城	山本 陽變	須崎尋高卒	靜岡
西村 晴雄	宇治山田中	三重	小林 茂	市立三年修	東京	山中 山士	茂原農學	千葉
				世田谷尋高卒	東京	尾形 賴政	四方津尋高卒	山梨

國學院大學卒業者文學博士學位錄

氏名	原籍	學位認可年月日	國學院大學卒業年
故 八代 國治	東京	大正十一年十二月二十六日	明治三十年
山本 信哉	愛媛	大正十二年四月二十六日	明治二十八年
故 三矢 重松	東京	大正十二年七月九日	明治二十六年
櫻 井 秀	東京	昭和三年七月十八日	明治三十六年
武田 祐吉	東京	昭和五年十二月二十七日	大正二年
河野 省三	埼玉	昭和六年十月二十七日	明治三十八年
植木 直一郎	新潟	昭和六年十月二十七日	明治三十一年
折口 信夫	大阪	昭和七年二月二十四日	明治四十三年
故 松下大三郎	靜岡	昭和七年二月二十四日	明治三十一年
井野邊 茂雄	高知	昭和十年四月十五日	明治三十年

國學院大學附屬圖書館圖書閱覽規則

第一條 本館ノ開閉時間及休日ハ左ノ如シ

- 一、平日ハ午前八時ヨリ午後七時迄
 - 一、日曜日ハ午前九時ヨリ午後四時迄
 - 一、春季休業期間ハ午前九時ヨリ午後四時迄
 - 一、夏季休業期間ハ午前八時ヨリ正午迄
 - 一、冬季休業期間ハ午前九時ヨリ午後四時迄
 - 一、休日ハ祝祭日、本所本大學創立記念日、卒業式當日
- 但シ開閉時間ハ臨時變更スルコトアルヘシ

第二條 圖書ヲ閱覽セントスルモノハ借書票ニ書名、冊數、記號、年月日、姓名ヲ詳記シ學生證ヲ添ヘテ借受ケノ手續ヲナスヘシ
但シ圖書ハ閱覽室外ヘ帶出スルコトヲ許サス

第三條 左ニ掲クル者ハ特ニ許可ヲ經タル上、圖書ノ閱覽ヲナスコトヲ得

- 一、皇典講究所卒業生
- 二、本大學卒業生
- 三、神職養成部卒業生
- 四、本所本學ニ特別ノ關係アル者
- 五、諸官廳學校等ヨリ特ニ照會アル者

第四條 閱覽室ニアリテハ靜肅ヲ旨トシ音讀、談笑、喫煙等ヲナスヘカラス其ノ他スヘテ閱覽者ノ障礙トナルヘキ舉動ヲ禁ス

第五條 教職員ハ必要ノ場合其ノ旨ヲ館員ニ通シタル上、書庫内ノ圖書ヲ檢索スルコトヲ得

第六條 研究室ニ要スル圖書ハ其ノ主任ノ名義ヲ以テ之ヲ借受クルモノトス

第七條 教授講師ハ參考用トシテ一員三拾冊（和洋裝ヲ論セス）ヲ限り其ノ他ノ職員ハ一員拾冊ヲ限リテ借受クルコトヲ得、其ノ借受期間ハ何レモ一ヶ月以内トス

第八條 逐次刊行ノ雜誌新聞紙類ハ到着セル日ヨリ三十日ヲ經過セサレハ借受帶出スルコトヲ得ス

第九條 貴重圖書、辭書、目錄類ハ所長若クハ學長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ館外ヘ帶出スルコトヲ許サス

第十條 教職員ニシテ退職ノ場合ハ借受ケタル圖書ヲ直ニ返納スルモノトス

第十一條 本館ニ於テ圖書點檢ノ必要アル時ハ借受人ニ對シ臨時圖書ノ返納ヲ求ムルコトアルヘシ

第十二條 借覽ノ圖書ヲ紛失シ或ハ汚損シタル時ハ必ス之ヲ辨償セシム、時宜ニヨリテハ圖書ニ代フルニ其時價ヲ以テスルコトアルヘシ

國學院大學學年主任內規 (昭和六年四月實施)

第一條 大學豫科附屬高等師範部附屬神道部ノ各學年ニ主任一人ヲ置ク

第二條 學年主任ハ其ノ部ノ學監ヲ補佐シ學生監ト協力シテ當該學年ニ於ケル生徒ノ指導及ヒ訓育ニ關スル事ヲ掌ル

第三條 學年主任ハ每學年度ノ始ニ本學教授又ハ講師ノ中ヨリ學長之ヲ囑託シ任期ハ一學年間トス

第四條 學部學生ノ指導訓育ニ關シテハ各研究室主任之ニ當ル

國學院大學研究室內規

第一條 國學院大學ニ左ノ研究室ヲ設ク

一、道義研究室

二、國史研究室

三、國文研究室

第二條 各研究室ヲ第一分科第二分科ノ二科ニ分ツ

第三條 各研究室ニ左ノ職員ヲ置ク

主任 各分科一名

助手 各一名

第四條 主任ハ學長ノ指揮ヲ承ケ研究室ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第五條 助手ハ主任ノ指揮ヲ承ケ左記ノ事項其ノ他研究室ニ關スル一切ノ實務ニ從事ス

- 一、室内ノ整理及監督
- 二、圖書ノ購入請求及管理
- 三、研究室日誌ノ記載
- 四、入室者名簿ノ管理
- 五、圖書目錄備附臺帳ノ保管

助手ノ勤務時間ハ研究室閉閉ノ時間ニ從フ

第六條 各研究室ニ左ノ臺帳ヲ備フ

- イ、備附圖書目錄
- ロ、備品臺帳
- ハ、圖書購入請求簿
- ニ、研究室日誌
- ホ、入室者名簿

第七條 研究室ハ毎日（日曜日ヲ除ク）午前八時半ニ開キ午後四時半ニ閉ツ

但シ臨時閉閉シ又ハ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第八條 研究室ニ入室スルコトヲ得ルモノ左ノ如シ

- 一、研究科學生
- 二、學部學生
- 三、附屬高等師範部同神道部生徒ニシテ研究室主任ノ指揮ヲ受ケントスル者
- 四、豫科生徒ニシテ特ニ研究室主任ノ許可ヲ得タル者
- 五、前四項ノ外本大學關係者ニシテ研究室主任ノ承諾ヲ得タル者

第九條 研究室ニ入室スル學生々徒ハ左ノ諸項ヲ嚴守スヘシ

- 一、入室ノ際ハ必ス其所屬ノ部（科）氏名ヲ備附ノ入室名簿ニ記入スヘシ
- 二、室内ニ在リテハ靜肅ヲ旨トスヘシ
- 三、圖書ノ閱覽ハ所定ノ場所ニ於テ爲スヘシ
- 四、圖書ノ取扱ハ鄭重ヲ念トシ書入汚損スルコトヲ許サス
- 五、室内ニ於テハ總テ主任及助手ノ指示ニ從フヘシ

第十條 研究室備附ノ圖書ハ一切帶出スルコトヲ許サス

第十一條 研究室ハ當該主任ノ許可ナクシテ講演等ニ使用スル事ヲ得ス

國學院大學人事委員會規程

- 一、本學ニ人事委員會ヲ設ケ學長監督ノ下ニ本學卒業生竝ニ神職養成部卒業生ノ人事ニ關スル調査
斡旋等ヲ爲ス
- 二、人事委員會ハ委員若干名ヲ以テ之ヲ組織シ委員中ヨリ委員長一名主査二名ヲ置ク
皇典講究所國學院大學各課長ハ委員トス
委員長委員及主査ハ學長之ヲ囑託ス
- 三、人事委員會ニ書記若干名ヲ置キ學長之ヲ命ス
- 四、人事委員會ハ總ヘテ名譽職トス
但シ主査ニ對シテハ手當ヲ支給スルコトヲ得
- 五、人事委員會ノ經費ハ總ヘテ大學費ヨリ之ヲ支出ス

備考

本規程ハ昭和八年七月三十一日ヨリ施行ス

國學院大學學友會會則

昭和九年六月十八日審議終了
昭和九年七月七日公布

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ國學院大學學友會ト稱ス
- 第二條 本會ハ國學院大學内ニ之ヲ置ク
- 第三條 本會ハ國學院大學學生生徒及皇典講究所神職養成部生徒ヲ以テ組織ス
- 第四條 本會ハ國學院大學建學ノ趣旨ヲ達成シ且會員相互ノ心身ノ修養鍛鍊竝ニ親睦ヲ圖ルヲ
以テ目的トス
- 第五條 本會ハ中樞機關トシテ本部ヲ置ク
本部ハ會長・理事長・副理事長・總務及主事ヲ以テ組織シ會務ヲ統制ス
- 第六條 本會ハ第四條ノ目的ヲ達成センカタメ第一號ノ部會ヲ置キ第二號ノ事業ヲ行フ
一、道義學會、國史學會、國文學會、漢文學會、新聞學會、上代文化研究會、教育研究會、滿

蒙研究會、神道青年會、皇國禊會、辯論部、文藝部、音樂部、尺八部、劍道部、柔道部、弓道部、野球部、庭球部、蹴球部、陸上競技部、馬術部、水泳部

二、附屬部會ノ管理、公開運動具ノ貸出竝ニ保管、學生共濟事業、催物其ノ他

各部會ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 役員

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク但シ顧問ハ事情ニ依リ之ヲ置カサルモ妨ナシ

- 會長 一名
- 顧問 若干名
- 理事長 一名
- 副理事長 一名
- 部・會長 各部會一名
- 總務 五名
- 委員 若干名

部會理事 各部會二名

主事 一名

第八條 會長ニハ學長ヲ推戴ス會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總統ス

第九條 顧問ハ本學關係者中ヨリ會長之ヲ委囑シ會長ノ諮問ニ應ス

第十條 理事長ハ學生課長・副理事長ハ學生監中ヨリ會長之ヲ委囑ス理事長ハ會長ノ命ニ依リ本會ノ事務ヲ總理シ副理事長ハ之ヲ輔佐ス

第十一條 部・會長ハ各部會ニ於テ本學教授講師中ヨリ推薦シ會長之ニ委囑ス部會長ハ當該部會ヲ總理ス

第十二條 總務ハ學部・大學豫科・高等師範部・神道部及皇典講究所神職養成部ノ最上級生中ニ於テ各一名ヲ前年度第二學期末マテニ互選シテ理事長之ヲ定ム總務ハ他ノ役員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

總務ハ理事長竝ニ副理事長ヲ輔佐シテ本會ノ事務ヲ處理ス

第十三條 委員ハ級委員ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ會員ヲ代表シ總務ヲ輔佐シテ會務ヲ遂行ス

第十四條 部會理事ハ前年度第二學期末マテニ當該部會員中ヨリ選出シ當該部會長ノ認可ヲ經テ

會長之ヲ定ム部會理事ハ他ノ役員ヲ兼ヌルコトヲ得ス
部會理事ハ當該部會ニ於ケル事務ヲ處理ス

第十五條 主事ハ院友中ヨリ理事長之ヲ推薦シ總會ノ承認ヲ經テ會長之ヲ委囑ス
主事ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 總務、委員及部會理事ノ任期ハ學年始ヨリ一ケ年トス

第十七條 本會役員ノ變更ハ會長ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第三章 集會

第十八條 集會ヲ分チテ總會、委員會、豫算會議、豫算案編成準備會、部・會長會、部會理事會
ノ六トス

第十九條 議長ハ理事長之ニ當ル理事長事故アルトキハ副理事長之ニ代ル

第二十條 集會ニ於テ議決セル事項ハ會長ノ決裁ヲ經テ之ヲ實施ス

第二十一條 總會ハ會長ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ召集ス

第二十二條 總會ハ總務、委員及各部會理事一名ヲ以テ組織シ會長、理事長、副理事長、部、會長

及主事之ニ加ハル

第二十三條 總會ハ全員（會長・理事長・副理事長・部・會長及主事ヲ除ク）五分ノ三以上出席ス
ルニ非レハ之ヲ開クコトヲ得ス

第二十四條 總會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一、部會ノ創設・廢止竝ニ併合ニ關スル事項

二、會則改正ニ關スル事項

三、主事任免ニ關スル事項

四、催物ニ關スル事項

五、其ノ他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第二十五條 總會ノ決議ハ多數決ノ法ニ依リ會長・理事長・副理事長・部・會長及主事ハ採決ニ加

ハラス賛否相半スルトキハ議長ノ裁決ニ依ル但シ部會ノ創設・廢止又ハ併合及本會則ノ改正増

補ニ關スル決議法ハ第五十四條ニ之ヲ定ム

第二十六條 委員會ハ會長ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ召集ス

第二十七條 委員會ハ理事長・副理事長・總務・委員及主事ヲ以テ組織ス

- 第二十八條 委員會ハ總務及委員五分ノ三以上出席スルニ非レハ之ヲ開クコトヲ得ス
- 第二十九條 委員會ハ總會ニ於テ議決スヘキ事項以外ノ事項ニ付キ議決ス
- 第三十條 委員會ニ於ケル決議法ハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス
- 第三十一條 豫算會議ハ毎年一月會長之ヲ召集シ本會次年度豫算ヲ審議査定ス
- 第三十二條 豫算ハ總務及委員之ヲ査定ス
- 第三十三條 豫算會議ニハ全委員五分ノ三以上出席スルコトヲ要シ理事長・副理事長・總務・次年度總務・主事及各部會理事（一名）之ニ加ハル但シ部會理事ニ事故アルトキハ理事長ノ許可ヲ經テ當該部會員之ニ代ルコトヲ得部・會長ハ傍聽スルコトヲ得
- 第三十四條 部會理事ハ當該部會豫算ノ説明及ヒ之ニ關スル意見ヲ陳フルコトヲ得
- 第三十五條 各部會ハ第二學期末マテニ本會總收入ノ八分ノ一以內ニ於テ適當ノ豫算案ヲ作成シテ理事長ニ提出スルモノトス
- 第三十六條 本部ヲ除ク各部會ノ補助査定額ハ如何ナル事情アリトモ本會總收入ノ八分ノ一ヲ超スルコトヲ得ス
- 第三十七條 豫算案編成準備會ハ毎年十二月之ヲ開催シ本會次年度豫算案編成ニ關スル準備ヲ爲ス

- 第三十八條 豫算案編成準備會ハ總務及各部會理事ヲ以テ組織シ理事長、副理事長及主事之ニ加ハル但シ委員ノ傍聽ヲ妨ケス
- 第三十九條 部・會長會ハ會長ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開催シ理事長、副理事長、總務及主事之ニ加ハル
- 第四十條 部會理事會ハ理事長ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ開催シ理事長、副理事長、總務及主事之ニ加ハル

第四章 會計

- 第四十一條 本會ノ會計年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第四十二條 會員ハ入會金二圓會費年額金十圓ヲ納ムルモノトス
- 第四十三條 各部會ハ毎月五日マテニ前月會計決算書ヲ年度末ニハ年度末會計決算書ヲ理事長ニ提出スルモノトス
- 第四十四條 各部會ハ其ノ年度ヲ左ノ二期ニ分チ各期末（但シ後期ハ二月初旬）ニ會計報告書ヲ理事長ニ提出スルモノトス